

評価の手引き (案) Ver.2

令和二年度

県立宮古特別支援学校



まえがき

平成 19 年に改正された学校教育法第 30 条 2 に学力の三つの要素として「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」が明確に示されました。その後、グローバル化や絶え間ない技術革新等、多様化・激動化する社会情勢を鑑みて、中央教育審議会答申（H28 年 12 月）では「資質・能力」について次のように示しています。①「何を理解して、何ができるか（「知識・技能」の習得）②理解していること・出来ていることをどう使うか（「思考力・判断力・表現力等」の育成）③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（「学びに向かう力・人間性」の涵養）の三つの柱です。こうした状況を受け、今回の学習指導要領では、これまで使われた「学力」から「資質・能力」へと表記の仕方に変化がみられます。これは従前までの知識や技能を中心とした学力観から、自らの力で自分の未来を切り拓いていけるための力をイメージできる資質・能力という新たな学力観への転換とみることができるでしょう。このような「資質・能力」の育成を目指した学力観の転換に伴い、学習評価の在り方も捉え直しが求められています。

それは、「成績をつける＝評価をする」という従来の評価観からの捉え直しとすることになります。

「成績」とは、「児童・生徒の学業のできぐあい」のことであり、学習を行った結果としての評価なので、学びの過程における学習評価という意味はありません。学習指導要領でも示されているように、これからは「どのように学ぶか」も学びの要素として重視されるようになっていきます。そのため、「学習過程の中で学び手がどのように向上したかを見取り、支援する評価」という評価観への捉え直しが必要となっています。このような評価観の実現を目指すものが本書で取り上げる「観点別評価」になります。

一方で「今までの評価の仕方ではなぜだめなのか?」「具体的にどのように観点別評価をしていけばよいかわからない」などの声を聞くことがあります。そこで、本校では資質・能力の育成を目指した観点別評価の実現に向けて、「評価の手引き」（案）を作成することとなりました。本書の目的は以下の 3 つとなっています。

I 評価の意義、観点別評価の意義について理解する

II 観点別評価を意識した主体的・対話的で深い学びを生み出し、資質・能力の育成を目指す

III 学習指導案を立て、計画的に観点別評価ができる

本書は、本校で行ってきた理論研究や授業研究を基に上記の三つの目的達成を目指し、次項の目次のような項立てを行っています。まず「I 評価の意義、観点別評価の意義について理解する」ために、「1 評価について」「2 観点別学習状況の評価について」が書かれています。ここを読むことで、「なぜ観点別評価をする必要があるのか」理論的根拠について知ることができます。次に「II 観点別評価を意識した主体的・対話的で深い学びを生み出し、資質・能力の育成を目指す」ために「3 主体的・対話的で深い学びの授業改善」が書かれています。ここを読むことでどのような授業計画・展開をすれば 3 つの柱で示される資質・能力が育成できるのかについて知ることができます。そして「III 学習指導案を立て、計画的に観点別評価ができる」ために「4 評価計画を含めた学習指導案づくり」「5 個別の評価記録」が提案されています。この様式に沿って書けば計画的に観点別評価ができる！という指導案・評価記録の様式になっていると考えています。さらに「6 学習指導案・個別の評価記録実践例」では、実際の指導案と評価記録実践例を載せています。最後に観点を明確にした通知表を書く助けとなるように「7 通知表の書き方について」が書かれています。

この「評価の手引き」（案）はあくまでも（案）です。時代も教育も変わり続けています。授業や評価の工夫に終わりはなく、つねに改善を重ねることが必要だと考え、これからも改善されながら少しでも活用されることを願っています。

目次

まえがき

1 評価について

- 「評価とは」 相関図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (1) 学習評価の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (2) 「何を」評価するのか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2 観点別学習状況の評価について・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

- (1) 「知識・技能」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (2) 「思考・判断・表現」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (3) 「主体的に学習に取り組む態度」・・・・・・・・・・・・ 5

3 主体的・対話的で、深い学びの授業改善

- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善とは・・・・・・・・ 6
- (2) 授業改善のポイント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (3) 授業改善例（授業研究会に出された意見を基に）・・・・・・・・ 7

4 目標と評価規準、評価基準の立て方・・・・・・・・・・・・ 8

5 評価計画を含めた学習指導案づくり・・・・・・・・・・・・ 10

- 評価計画を含めた学習指導案(略案)様式・・・・・・・・・・・・ 13

6 個別の評価記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

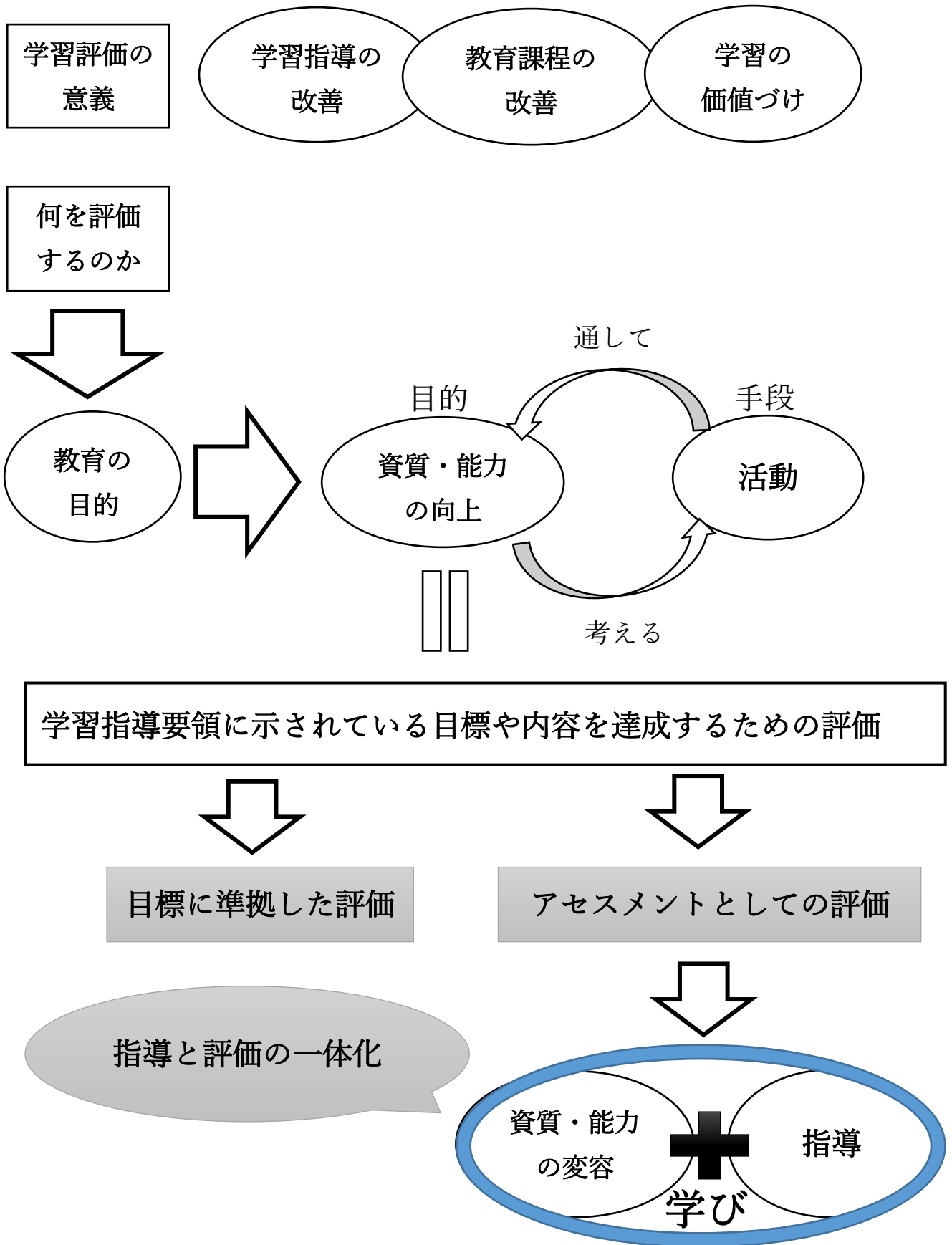
7 学習指導案・個別の評価記録実践例

- (1) 小学部5・6年 生活単元学習「コロナ対策を自分で考えよう」・・・・ 17
- (2) 小学部4年 遊びの指導「ころころキャッチゲーム」・・・・・・・・ 23
- (3) 中学部複式 生活単元学習「自分ができる台風対策を考えよう」・・・・ 28
- (4) 高等部複式 生活単元学習「自分らしさを活動で発揮する」・・・・ 34
- (5) 寄宿舍小学部6年 生活指導
「衣服の清潔さを維持することで、健康の保持増進に繋がることを理解する」・・・・ 40

8 通知表の書き方について

- (1) 通知票の書き方について・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
- (2) 通知表の記入で配慮したいこと・・・・・・・・・・・・ 46
- (3) 通知表の記入例（小学部）・・・・・・・・・・・・ 48

「評価とは」 (次ページの説明の相関図)



1 評価について

(1) 学習評価の意義

学習評価には3つの意義があると考えられる。

- ① 教師が、学習指導の改善に活かすため
- ② 教師が、教育課程（個別の指導計画、年間指導計画等）を見直し改善するため
- ③ 児童生徒が、自分の成長や課題を認識し学習に対する意欲を高めるため

「評価」と聞いてすぐに思い浮かぶのは通知表や指導要録だという教師は多いのではないだろうか。しかし、通知表や指導要録は「評価」の一部であり、上述の3つの意義で言うと、主に③の意義を持つものである。教師が、評価を通して3つの意義を果たし、効果的に学習指導を行っていくためには、3つの意義に即した評価を行っていく必要がある。それが「観点を明確にした評価」であるとする。

(2) 「何を」評価するのか

教師は児童生徒に対し「学習活動」を実施する。そしてその「学習活動」を評価する。しかしながら、教育とは、「学習活動」を行うことが目的ではない。教育の目的は「児童生徒の資質・能力の向上」を実現させることである。「学習活動」はそのための手段であり、目的ではない。そのため、学習評価の対象となるのは「児童生徒の資質・能力の変容」である。教師は、「学習活動そのもの」を評価するのではなく、「学習活動を通して捉えた児童生徒の資質・能力の変容」を評価する必要がある。

ここでの「資質・能力」とは、学習指導要領の「目標」または内容に示された「事項」に示されている記述内容のことである。そのため、学習指導要領の「目標」または内容に示された「事項」の記述内容が評価を行う際の「単元の目標」となる。そして、その目標の達成を目指す評価が「目標に準拠した評価」ということになる。

これは、これまで入試やテストの際に行われてきた集団に準拠した相対評価とは全く別物であり、「アセスメントとしての評価」であるといえる。「アセスメントとしての評価」とは、「学習過程の中で児童生徒がどのように向上したかを見取り、支援する評価」である。そこでは、学びの結果を問うだけでなく、学びの過程そのものを重視し、児童生徒がいかに学ぶかを支援するという積極的な教師の関わりを含む評価となっている。つまり、教師として児童生徒と距離を置いて評価を行うのではなく、教師自身も学びの当事者となって、学びそのものを充実させていくことも含めて、学習評価を行っていくということである。

この「手引き」における「学習評価」は、「目標に準拠した評価」「アセスメントとしての評価」を示している。

【 「何を」評価するのか 】

「学習活動を通して捉えた児童生徒の資質・能力の変容」 + 「教師の指導・支援」

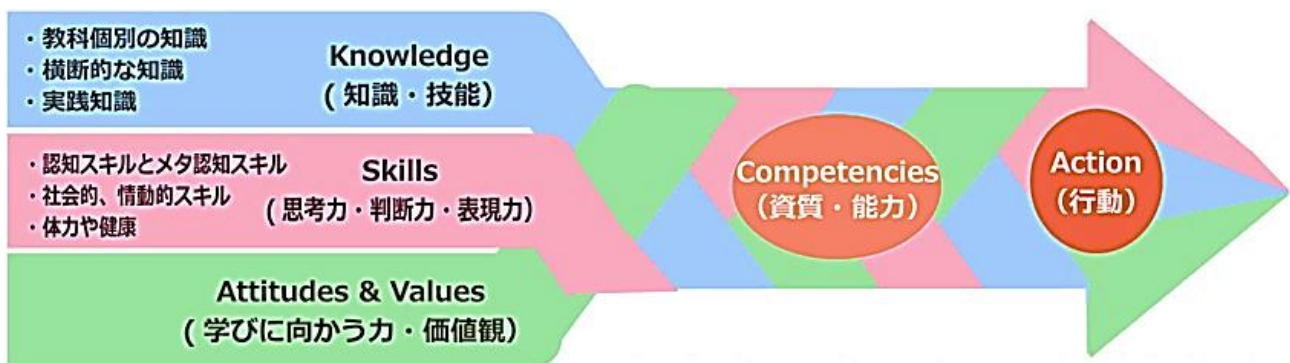
2 「観点別学習状況の評価」

「観点別学習状況の評価」とは、育成すべき資質能力を3つの観点の視点から見取り、学習状況を評価するとともに、一人一人の学習状況を支援するための評価である。中央教育審議会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成31年1月21日、以下「中教審『31年報告』」）では次のように示されている。「今回の学習指導要領改訂では、各教科等の目標や内容を「知識及び技能」「思考、判断、表現」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で再整理している。これらの資質・能力に関わる「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点別学習状況の評価の実施に際しては、このような学習指導要領の規定に沿って評価規準を作成し、各教科等の特質を踏まえて適切に評価方法を工夫することにより、学習評価の結果が児童生徒の学習や教師による指導の改善に生きるものとするのが重要である。」

このように、観点別学習状況の評価では、目標に準拠した評価として学習指導要領に示されている「目標」や「内容」の「事項」を対象として単元全体で育成すべき評価規準を設定する。そして、その評価規準に対して単元全体を通して何を、いつ、どのように指導するかということを明確にし、その指導による児童生徒の評価規準に対する実現状況を3つの観点から見取ることが必要である。

また、それぞれの観点は相関し合っている。「主体的に学習に取り組む態度」は「知識・技能」「思考・判断・表現」を身に付ける際に発揮される力であり、単独で発揮される力ではない。単元を通して身に付けていく力なので3観点の中でも後半に評価されることが適切と考えられる。「知識・技能」を身に付けて、その力を「思考力・判断力・表現力」として活用することもあれば、「知識・技能」を身に付ける際に「思考力・判断力・表現力」が発揮されることも考えられる。3つの観点の力がお互いに影響し合って、1つの資質・能力が育まれていくと考えられる。

図1はOECDが2030年の子どもたちに育成すべき資質・能力の内容を示したものである。3つの観点の力が絡み合い、行動として表出されている。行動として表出される際には、3つの観点の力が同時に発揮されているが、それを教師が意図的に捉え直し、1つ1つの観点の力を分析的に評価し、改善、指導していくことでより効果的な指導・支援が実現できると考える。



OECD『Global competency for an inclusive world』より

図1

(1) 「知識・技能」

新学習指導要領によって、これまでの「知識・理解」と「技能」の観点が「知識・技能」に統合されたわけだが、「理解」の文言がなくなったからと言って、その観点が抜け落ちてしまったわけではない。日々の「わかる」授業により、理解を伴った豊かな知識の習得を保障し、応用の利く知識、つまり生きて働く知識を形成していくことが求められる。

【知識・技能】

各教科において習得すべき知識を理解して、実際に活用できる技能として身につけているかどうかを評価する観点。特別支援教育では、生活に必要な知識を頭で理解しただけ、もしくは技能を機械的にできるだけにとどまらず、実際の活動や体験を通して「わかってできる」力になっていることが重要である。

(2) 「思考・判断・表現」

「思考・判断・表現」の評価は、「各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価するもの」（中教審「31年報告」）とされている。「知識・技能」が「わかってできる」レベルの思考力であるとするなら、「思考・判断・表現」は「使える」レベルの思考力であり、意思決定や問題解決等、複数の「知識・技能」を総合知として活用しているかどうかを評価する必要がある。

また、「思考・判断・表現」の評価のポイントとして、京都大学大学院准教授、石井英真は「新指導要録と資質・能力を育む評価」（ぎょうせい 2019）の中で以下のように述べている。「ドリブルやシュートの練習（ドリル）がうまいからといってバスケの試合（ゲーム）で上手にプレイできるとは限らない。ところが、従来の学校教育では、子供たちはドリル（知識・技能の訓練）ばかりして、ゲーム（学校外や将来の生活で遭遇する本物の、あるいは本物のエッセンスを保持した活動：「真正の学習」）を知らずに学校を去ることになっている。変化の激しい社会の中で学校教育に求められるようになってきているのは、知識・技能を総合して他者と共に協働的な問題解決を遂行する「真正の学習」の保障である。そして、そうした学習が自ずと生じるよう、「問題のための問題」（思考する必然性を欠いた不自然な問題）に陥りがちな学校での学習や評価の文脈を、よりホンモノなものへと問い直すことが求められている。」つまり、「使える」レベルの思考力を評価するためには、正解が一つに定まらなかったり、定型化された解法がなかったりするような課題解決の場面設定を教師が行い、その学習場面において児童生徒がどのような総合知を発揮するのかを見取っていくことが必要となってくる。そのためには、児童生徒が「思考・判断・表現」するための時間を保証することも必要となってくる。

「思考・判断・表現」は、特に教科の特徴が表れる観点なので、学習指導要領で確認しながら、児童生徒の発達段階に応じて適切に目標の設定および評価を行っていくようにしたい。

【思考・判断・表現】

各教科の知識や技能を活用して課題を解決すること等のために必要な思考力・判断力・表現力を児童生徒が身につけているかどうかを評価する観点。また、各教科の内容について思考・判断したことを表現する活動と一体的に評価する観点。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」

以前用いられていた4観点の「興味・関心・意欲」から学習指導要領改訂を受けて新しく「主体的に学習に取り組む態度」の観点が用いられるようになった。「知識・技能」「思考・判断・表現」を支える重要な観点であり、教師が「主体的に学習に取り組む態度」の観点を的確にとらえることは必要なことだと考えられるので、中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日、以下「中教審『28年答申』」）、中教審「31年報告」で示されていることを中心に見ていくことにする。

『主体的に学習に取り組む態度』と資質・能力の柱である『学びに向かう力・人間性』の関係については、『学びに向かう力・人間性』には①『主体的に学習に取り組む態度』として観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることができる部分と、②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価（個人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する）を通じて見取る部分があることに留意する必要がある。

なお、観点別学習状況の評価には十分示しきれない、児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況等については、日々の教育活動や総合所見等を通じて積極的に子供に伝えることが重要である。（中教審「28年答申」）特に特別支援教育においては、「よい点や可能性、進歩の状況」を子供に伝え、自己肯定感を育むことは学習意欲の喚起に有効だと考えられる。

また、『主体的に学習に取り組む態度』については、学習前の診断的評価のみで判断したり、挙手の回数やノートの取り方などの形式的な活動で評価したりするものではない。子供たちが自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげるといった、学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしていたりしているかどうかという、意思的な側面を捉えて評価することが求められる。（中教審「28年答申」）ということも指摘されている。つまり、単元の初期のころに見られる積極性はその単元で育まれた主体性・積極性ではなく、子供が元々持っている性向、もしくはその単元の学習以前に培われた主体性・積極性だと考えられ、その単元の『主体的に学習に取り組む態度』の評価の対象となることはできない。中教審「31年報告」では、「主体的に学習に取り組む態度」のみを単体で取り出して評価することは適切でないとされており、「知識・技能」「思考・判断・表現」と一体的に評価していく方針が示されている。具体的な評価の例として、課題解決学習を実施する際に、思考のみならず、粘り強く考える意欲や失敗から学ぼうとする態度が要求されるように場面設定を行い、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の両方を評価していくといった方法が考えられる。

そして、「身に付けた資質・能力は将来どのように活用されるのか」、「なぜこの資質・能力を身に付ける必要があるのか」ということも理解される必要がある。つまり、学習内容の「意味理解」だけでなく、学習内容の「意義理解」も重要となってくる。そのためには、本時や単元の「ねらい」を児童生徒に説明する際に、将来の生活に結び付けて話すようにすることが効果的だと考えられる。

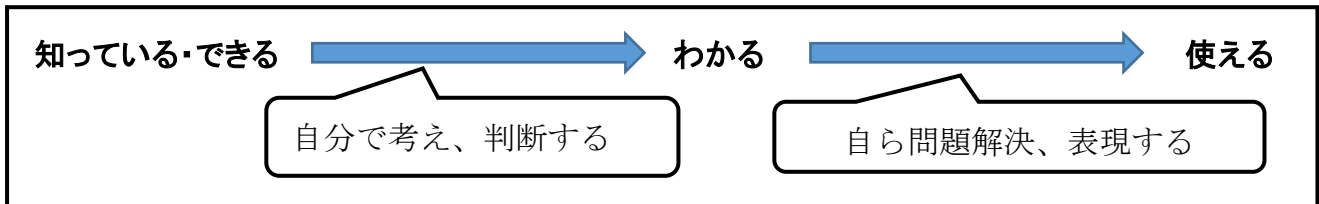
【主体的に学習に取り組む態度】

児童生徒が知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする側面と、自らの学習を調整しようとする側面の2つの側面から評価する観点。

3 主体的・対話的で、深い学びの授業改善

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善とは

学習指導要領によると、これからは「3つの評価の観点」を意識しながら、「主体的・対話的で深い学び」を授業の中に生み出していく必要がある。そうすることで、子ども達に資質・能力を身に付けさせていくことができると考える。そのためには、教育の質を高めていくことが必要である。(量より質を重視!) 同じ「知識・技能」でもより質の高い「使える知識・技能」の育成が求められる。目指すのは生活の質を向上させる「知識・技能」である。



「授業改善」とは、P D C AのActionだけを指すのではなく、授業の計画、実践、評価、改善の一連の流れを指す。学習指導要領によると「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を行っていくように以下のように示されている。

	視点	観点との関連
主体的	学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、 <u>見通し</u> を持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を <u>振り返って</u> 次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。	「主体的に学習に取り組む態度」
対話的	子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手がかりに考えること等を通じ、 <u>自己の考えを広げ深める</u> 「対話的な学び」が実現できているかという視点。	「思考・判断・表現」
深い学び	習得・活用・探求という学びの過程の中で、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に <u>関連づけ</u> てより深く理解したり、 <u>情報を精査</u> して考えを形成したり、問題を見いだして <u>解決策</u> を考えたり、思いや考えを基に <u>創造</u> したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に学習に取り組む態度」

(2) 授業改善のポイント

令和元年度の研究の成果と課題より、本校の課題として①「知識・理解」の質の弱さ、②「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価の難しさ、③子供が学習活動に評価をいかせていない、という課題が挙げられた。これらの課題を解決するために宮特として以下のポイントに絞って主体的・対話的で深い学びの授業改善を行っていききたい。

- ① 子供が、学習の意義や学習の計画を理解し、見通しを持っているか
(めあてや学習計画の提示の工夫)
- ② 子供が考え、判断する場面があるか
(教わる学習と考える学習のバランスや工夫)
- ③ 子供が振り返り(評価)を通して学びを意識化しているか
(子供に伝わる評価の工夫)

(3) 授業改善例(授業研究会に出された意見を基に)

【導入】

① 学習の意義の理解

- ・本単元での学習が、将来どのように役立つのか、繋がるのかを説明する。
- ・めあてを発問で提示すると、学習の意義を考えるきっかけとなる。
- ・学習内容と実生活を結び付けた話を導入で行うと、学習の意義が理解しやすくなる。

② 学習の計画の理解

- ・本時の学習内容やめあての確認だけでなく、今までの学習の振り返り、今後の学習の計画、最終的な学習のゴールについて話をする事で、子ども達も見通しを持って学習に取り組むことができる。
- ・本単元の計画だけでなく、年間を通した学習の中での本単元の位置づけが理解されているとより効果的な学習となる。
- ・重複学級においては、毎日の活動に継続性があることで見通しを持つことにつながる。

【展開】

① 考え、判断する場面の設定

- ・子ども達がスムーズに活動できる授業を目指すのではなく、活動につまずきながら、考え、悩む授業を目指す。
- ・「子ども達が『なぜ?』と考えられる学習内容」、「自分で答えを導く内容」の設定が大切。
- ・子ども達同士で教え合うことで、考え・判断することが活性化するだけでなく、教えている子にとっては、学びの意識化につながる。
- ・重複障害の児童生徒の場合、ちょっとした動き、表情、声出しなどを、「思考・判断・表現」の表れとして捉えることが大切。

【振り返り】

① 学習の振り返り場面

- ・学習の振り返りでは、めあての達成を確認することが基本となる。めあてを言いつ放しにするのではなく、めあての責任を取ることが学習の振り返りの目的。
- ・学習の足跡を掲示しておくことで、本時以外の時間にも学びの意識化が図られる。

② 自己評価

- ・振り返りシートを活用することで、自分の学びを効果的に振り返ることができる。

③ 相互評価

- ・口頭での感想発表などを教師が白板等(可視化)することで、より子ども達の学んだことへの理解が深まる。
- ・自分の学習の振り返りだけでなく、友達の学習について振り返る(評価する)ことは発達段階によってはより効果的な振り返りとなる。

④ 教師による評価

- ・今日の学びで生活の質がどのように変わるのかを伝えることで学びの意識化がされる。
- ・子供の頑張っている点、良い点を教師が言語化し評価することで、学びの意識化がされる。

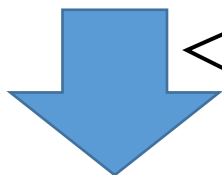
【その他】

- ・学校の授業だけで学びの意識化を図ることは難しいので、授業で学んだ内容を家庭や寄宿舍等でも共有し、般化させていくことが大切。

4 目標と評価規準、評価基準の立て方

①「育てたい資質・能力」を設定します

はじめに、児童生徒の実態や課題からその教科領域の学習を通して「育てたい資質・能力」を設定します。その際には教育課程の基準である学習指導要領で示されている目標や内容の事項を参考にしてください。



授業を構想する際には、育てたい資質・能力を育む適切な単元（活動）を考えます。単元（活動）を先に考えるわけではありません。

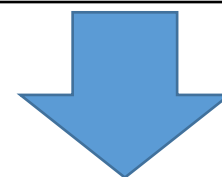
②「育てたい資質・能力」から単元の全体目標を導き出します

設定した「育てたい資質・能力」を身につけるための、単元の全体目標を考えます。目標は児童生徒の立場で書きます。この目標も「活動の目標」ではなく、「資質能力の目標」となることに留意して下さい。学習指導要領の目標や内容の事項が参考になります。



③単元の全体目標から単元の観点別目標（評価規準）を立てます

単元の全体目標を3観点の目標に分けて書きます。何に着目して評価するのかという内容を書くようにしてください。単元目標が複数ある場合は、その中でも一番重視する単元目標の観点別目標を書いてください。この単元の観点別目標が単元の評価規準になります。学習指導要領の内容の事項は観点別に整理されているので、参考になります。



④単元の観点別目標から単元の個別の観点別目標を立てます

単元の観点別目標を受けて、「その目標をAさんについて考えるとこうなる」というようにして単元の個別目標（観点別）を設定します。ここでは、基本的に一人一人3観点のそれぞれの目標が立てられます。この単元の個別の観点別目標が、単元の個別の評価規準になります。



⑤単元の観点別目標を受けて、本時の目標を立てます

単元の観点別目標を受けて、本時で重点を置く観点に絞って目標を設定します。集団全体で本時に取り組むことを設定します。



⑥本時の目標を受けて本時の個別目標を立てます

本時の目標を受けて、本時における個人の目標を観点別に書きます。全ての観点の目標を立てる必要はありません。単元の個別の観点別目標に対応させて書きます。個別の実態に応じて本時の目標とは違う観点の目標になることもあります。



⑦本時の個別目標を受けて、本時の個別の評価基準を立てます。

本時の個別目標に対して、個々の児童生徒が、どのようなことをどの程度できれば目標達成といえるかがわかるように設定します。本時における児童生徒の学ぶ姿を想像して設定します。

【評価規準】

目標に対して、観点別に具体的な活動場面を想定しながら「何ができれば『できた姿』となるのか」を文章で表したものです。評価規準を設定することで、児童生徒の学習状況の評価を明確に実施することができます。本校では、この「評価規準」と「観点別の目標」を同義と捉えています。

【評価基準】

評価規準で示された学習内容の習得状況の程度を明確に示すための指標を文章表記で表したものです。その際には「十分満足できる姿」「概ね満足できる姿」「努力を要する姿」等に分けて表記します。評価基準を設定することで、児童生徒がどの程度、目標を達成できたのかが明確になります。

5 評価計画を含めた学習指導案づくり

評価計画を含めた学習指導案作りの意義

学習指導案の中に評価計画を含めることには3つの意義があります。①観点別目標（評価規準）を立てることで、分析的に評価をすることができる。②単元の評価計画を立てることで、3観点を総合的に育成することができる。③評価基準を立てることで、児童生徒の学ぶ姿を想定して授業実践を実施することができる。

また、授業実践を行う複数の指導者で話し合いながら評価計画を含めた学習指導案を作成するということは、目標・評価の信頼性・妥当性を高めることにつながります。

学習指導案様式

〇〇学習指導案

令和〇年〇月〇日〇曜日〇校時 場所：〇〇〇〇

〇学部 〇グループ 男子〇人 女子〇人 計〇人

指導者 CT：〇〇〇〇 ST：〇〇〇〇 〇〇〇〇

【育てたい資質・能力】

本単元で育てたい資質・能力を、学習指導要領を参考にして記入してください。

1. 単元名「〇〇〇〇〇」

2. 単元設定の理由

(1) 児童生徒観

このような実態で、このような課題がある児童生徒たちです。



(2) 単元観

だから、このような意義のある単元を選びました。



(3) 指導観

目標達成のために、このような指導・支援を行っていきます。

3. 単元目標

(1)

本単元で身につけさせたい力から導き出される、単元を見通した全体の目標を設定してください。

4. 単元の観点別目標（評価規準）

(1) 【知識・技能】

(2) 【思考力・判断力・表現力】

(3) 【主体的に学習に取り組む態度】

「3. 単元目標」を3観点の目標に分けて書きます。何に着目して評価するのかという内容を書くようにしてください。単元目標が複数ある場合は、その中でも一番重視する単元目標の観点別目標を書いてください。

5. 学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	1		◎		
	2		◎	○	
二	1		○	◎	
	2			◎	○
三	1			○	◎
	2		○	○	◎

「4. 単元の観点別目標」の達成のために、どのような学習活動を展開していくかを考え、主な学習活動に記入します。また、評価の観点には、3観点の内容のどこに重点を置いて学習を展開していくかを示します。

6. 単元の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A			
B			
C			

「4. 単元の観点別目標」を受けて、「その目標をAさんについて考えるとこうなる」というようにして単元の個別目標を設定します。ここでは、一人一人3観点それぞれの目標が立てられます。

7. 本時の学習（ の 時）

(1) 本時の目標

- ①
- ②

(2) 本時の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A			
B			
C			

(1) 本時の目標を受けて、本時における個人の目標を観点別に書きます。（本時の評価規準）
「6. 単元の個別目標」に対応させて書きます。

(3) 本時の展開

	学習活動	評価の観点	教師の指導及び支援及び配慮事項	備考
導入 〇分	児童生徒の立場で具体的な活動を書きます。	重視する評価の観点を学習活動に沿って記入する。	教師の立場で、教師が行う指導・支援を書きます。「(児童生徒が)～できるように(教師が)～する」 教材教具の工夫、環境設定、教師の関わりなど。	準備物や補足事項
展開 〇〇分				
まとめ 〇分				

8. 本時の評価基準

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	◎ ○ △		
B	◎ ○ △		
C	◎ ○ △	◎ ○ △	

(2) 本時の個別目標に対して、個々の児童生徒が、どのようなことをどの程度できれば目標達成といえるかがわかるように書きます。

評価計画を含めた学習指導案(略案)様式

本校様式での学習指導案作りには多くの時間が必要となることから、もっと気軽にA4二枚くらいでさくっと作れる学習指導案(略案)様式も提案します。

略案では単元設定の理由がなくなりますので、児童の実態として、「育てたい資質・能力」とともに既に「育っている資質・能力」の記入もお願いします。本研究では、3観点の視点で単元の計画を考えたり、個別の単元目標を考えたりすることが肝となるため、以下のような様式となっています。ただし、児童生徒の実態から個別の単元目標の設定が必要ない場合は「4. 単元の個別目標」は省略可能とします。

○○学習指導案(略案)

学習指導案(略案)様式

令和○年○月○日○曜日○校時 場所：○○○○

○学部 ○グループ 男子○人 女子○人 計○人

指導者 CT：○○○○ ST：○○○○ ○○○○

【育てたい資質・能力】

本単元で育てたい資質・能力を、学習指導要領を参考にして記入してください。

【育っている資質・能力】

本単元の学習前に育っている資質・能力について記入してください。

1. 単元名「○○○○○」

2. 単元の観点別目標(評価規準)

- (1) 【知識・技能】
- (2) 【思考力・判断力・表現力】
- (3) 【主体的に学習に取り組む態度】

単元の目標を3観点の視点で書きます。何に注目して評価するのかという内容を書くようにしてください。

3. 学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	1				
	2				
二	1				
	2				
三	1				
	2				

「2. 単元の観点別目標」の達成のために、どのような学習活動を展開していくかを考え、主な学習活動に記入します。また、評価の観点には、3観点の内容のどこに重点を置いて学習を展開していくかを示します。

4. 単元の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A			
B			
C			

「2. 単元の観点別目標」を受けて、「その目標をAさんについて考えるとこうなる」というようにして単元の個別目標を設定します。ここでは、一人一人に対して3観点それぞれの目標が立てられます。単元の個別目標を達成することが本単元の目的となります。ただし、児童生徒の実態から個別の単元目標の設定が必要ない場合は省略可能とします。

5. 本時の学習（の時）

(1) 本時の目標

- ①
- ②

(2) 本時の展開

本時の目標は、「2. 単元の観点別目標」と「3. 学習計画と評価計画」との整合性を図りながら、本時に取り組む目標を書きます。目標は観点別の視点で書きますが、単元を通して3観点の評価を行うため、必ずしも3観点全ての目標を書かなければいけないわけではありません。

	学習活動	評価の観点	教師の指導及び支援及び配慮事項	備考
導入 〇分	児童生徒の立場で具体的な活動を書きます。	重視する評価の観点を学習活動に沿って記入する。	教師の立場で、教師が行う指導・支援を書きます。「(児童生徒が)～できるように(教師が)～する」 教材教具の工夫、環境設定、教師の関わりなど。	準備物や補足事項
展開 〇〇分				
まとめ 〇分				

6 個別の評価記録

個別の評価記録の意義

個別の評価実践記録を作成することで、一人一人の児童生徒の観点別目標に基づいて、観点別評価を実現することができます。そのことが、授業改善や個別の指導計画・年間指導計画の改善につながります。

個別の評価記録の書き方

【単元学習に入る前に書くこと】

※本単元の学習指導案がある場合は、それを基に個別の評価記録を作成します。

- (1) 「①個別の観点別目標」を立ててください。これは単元を通しての目標になります。活動の目標ではなく、資質能力の目標となります。学習指導要領の目標、内容、事項等が参考になります。
- (2) 次に「②各時間の個別の観点別目標」を「①個別目標」を参考に立ててください。これは毎時間の個別目標になります。

【単元学習中に書くこと】

- (3) 毎時間の「②各時間の個別の観点別目標」に対応する観点に対して◎○△等で「③評定」を記入し、「②各時間の個別の観点別目標」に対する「③各時間の個別の観点別評価」を簡単に記述してください（3観点全ての評価をする必要はありません）。

実際には、児童生徒の活動に応じて、設定した観点別目標とは違う観点の評価を行うことも考えられます。評価計画はあくまで計画です。計画に縛られるのではなく、活用する（計画を変更する）ことも大切だと考えます。

また、毎時間の評価を行うことが難しければ、評価を行う回数を減らしてもよいと考えます。計画の段階で第○時に「知識・技能」の評価を行い、第○時に「思考・判断・表現」の評価を行い、最後の時間に「主体的に学習に取り組む態度」について評価する、というような評価の方法も考えられます。最終的に単元終了時に3観点の評価が行われていることが大切です。

【単元終了後に書くこと】

- (4) 毎時間の「③各時間の個別の観点別評価」をもとに単元を通しての「④個別の観点別評価」と「④評定」を記述してください。
- (5) さらに「④個別の観点別評価」から導き出される成果と課題（どんな資質・能力が育ったのか、どんな課題が見つかったか等）を「⑤学習の成果と課題」に記述してください。この「⑤学習の成果と課題」を基に通知表や個別の指導計画、指導要録の評価が記述されたり、個別の指導計画の改善が行われたりしていきます。
- (6) さいごに、本単元の計画や内容についての評価を「⑥単元の成果と課題」に記述してください。この「⑥単元の成果と課題」を材料に次の単元の計画の改善や、年間指導計画の改善に取り組んでいきます。

1. 単元の個別の観点別目標と観点別評価

観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①個別の 観点別目標			
④個別の 観点別評価			
④評定			
⑤学習の 成果と課題			
⑥単元の 成果と課題			

2. 本時の個別の観点別目標と観点別評価

次	時	②各時間の個別の観点別目標	③評定			③各時間の個別の観点別評価
			知	思	主	
一	1					
	2					
二	1					
	2					
三	1					
	2					

7 学習指導案・個別の評価記録実践例

(1) 小学部実践例

生活単元学習指導案

令和2年 6月11日 4校時 場所：学習室
小学部 5・6年生 男子3人
指導者 大嶺耕一

【育てたい資質・能力】

「相手の話に関心を持ち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすること。」 特支要領小学部、国語3段階 聞くこと・話すこと

1. 単元名「コロナ対策を自分で考えよう」

2. 単元設定の理由

(1) 児童観

3名の児童は国語の学習を通して、「聞く・話す」活動に取り組んできた。「絵日記を書こう」の単元では、「知らせたい体験を決めて必要な事柄を思い出し、語と語、文と文とのつながりに気を付けて書き、交流をすることができる。」ことを目標に取り組んだ。どの児童も、体験を簡単な定型文に当てはめて「いつ、どこで、だれと、なにを、どうした。どう思った。」ということを書き、読んで発表することができた。また、書いた内容について教師が質問をすると、より詳しく体験について話すこともできた。一方で、3名の児童は「話す」ことに比べて「聞く」ことは苦手になっている。自分の考えや思いを話す経験は多いが、人の話を聞いて、そのことについて考え、意見を述べる等、「話し合い」の経験が少ないことが一因として考えられる。本単元では「聞く→考える→話す」という一連の流れを重視し、ニュースやネットの情報や教師、友達との意見の交流を通して自分なりの考えを持つことを目標に取り組んでいく。

(2) 単元観

本単元では、「聞くこと・話すこと」の内容を中心に学習を進めていく。特別支援学校学習指導要領小学部、3段階のA「聞くこと・話すこと」の中の以下の内容を中心に取り組んでいく。

- ア 絵本の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取ること。
- ウ 見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること。
- カ 相手の話に関心を持ち、自分の思いつきや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすること

教材として取り上げる新型コロナウイルスは児童の生活にとって身近なものであり、見聞きしたことも多いと考えられる。「新型コロナウイルス＝怖い病気」「手洗いをするのは大切」等の「知識・技能」は持っているものと考えられる。しかし、その「知識・技能」は教わったものであり、自分で新型コロナウイルスについて深く考えたことはないと予想される。新型コロナウイルスに対する「知識・技能」を「知っている・できる」レベルから自分なりに解釈したり、関連付けたり、比較することで「わかる」レベルへと引き上げ、さらに教師や友達と対話することを通して深く学ぶことで「使える」レベルの「知識・技能」を獲得していくことを目指して取り組んでいく。

(3) 指導観

本単元では、「主体的・対話的で深い学び」が行われるよう指導を行う。

	指導方法	観点との関連
主体的	①単元の始めにコロナウイルスについて学ぶ意義を知り、毎時間授業の始めに確認を行う。 ②単元の始めに学習の計画について知り、毎時間授業の始めに確認を行う。また、単元の最後に「コロナニュース」を作ることを目標に見通しを持って学習活動を進めていく。	「主体的に学習に取り組む態度」
対話的	①コロナウイルスについて教わることで「知識・技能」を習得するだけでなく、ニュースやインターネット等で情報を集め、それを精査したり、教師や友達と対話することで自らの考えを広げたり、深めたりすることでコロナウイルスについての「生きて働く知識・技能」を獲得していけるようにする。	「思考・判断・表現」
深い学び	①獲得したコロナウイルスについての「知識・技能」を基に、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、これからの自分達の生活がどのように変化していくかについて自分なりの考えを持てるようにする。 ②単元の最後に、自分達が獲得したコロナウイルスについての「知識・技能」を模造紙にまとめたり、人に伝えることを意識してニュース動画を作成することで、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」の実現を目指す。	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」

3. 単元目標

生きて働くコロナについての「知識・技能」を「思考力・判断力・表現力」を発揮させながら「主体的に」獲得していく。

4. 単元の観点別目標（評価規準）

- コロナウイルスへの感染の仕方や現在の社会状況について知る。感染予防策の意義を理解している。感染予防策ができる。【知識・技能】
- ニュースやネットの情報、教師や友達の意見を参考に自分なりに考えることができる。【思考・判断・表現】
- 粘り強く人の意見を聞き、理解しようとしている。学習に見通しを持とうとしている。自分が新しく分かったことと分からないことについて分かってしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

5. 学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	四時間	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染症についての基本情報を調べる。 コロナウイルス感染症の現在の状況について調べる。(経過や世界の状況等) コロナウイルス感染症対策の方法や意義について調べる。 緊急事態宣言や休校措置、経済問題について調べる。 	◎	○	
二	四時間	<ul style="list-style-type: none"> 新しい生活様式について考える。 コロナウイルス感染症によって、自分の生活が変わること、変わらないことについて考え、判断する。 コロナウイルス感染症について調べたことや、自分なりに考えたことを模造紙にまとめ上げる。 	○	◎	
三	四時間	<ul style="list-style-type: none"> 模造紙にまとめ上げたものを基に「コロナニュース」を作る 本単元の学習を振り返り、新しくわかったことと、わからなかったことを認識する。 自己評価と他者評価を行う。 	○	○	◎

6. 単元の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	コロナウイルスへの感染の仕方や現在の社会状況について知る。感染予防策の意義を理解している。	ニュースやネットの情報、教師や友達の意見を参考に自分なりに考えることができる。	粘り強く人の意見を聞き、理解しようとしている。学習に見通しを持つようとしている。自分が新しく分かったことと分からないことについて分かるようとしている。
B	コロナウイルスへの感染の仕方や現在の社会状況について知る。感染予防策の意義を理解している。	ニュースやネットの情報、教師や友達の意見を参考に自分なりに考えることができる。	粘り強く人の意見を聞き、理解しようとしている。学習に見通しを持つようとしている。自分が新しく分かったことについて認識している。
C	感染予防策の意義を理解している。 感染予防策ができる。	ニュースやネットの情報、教師や友達の意見を参考に自分なりに考えることができる。	粘り強く人の意見を聞き、理解しようとしている。学習に見通しを持つようとしている。

7. 本時の学習（一の4時）

(1) 本時の目標

調べた情報や人の意見を参考にして緊急事態宣言や休校措置の内容と意義について考え、説明することができる。【思・判・表】【主体的】

(2) 本時の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	緊急事態宣言の内容と意義について説明できる	ネットの情報や教師の提示する情報、教師や友達の意見、前時までの学習を参考に緊急事態宣言の意義について粘り強く考えることができる	
B	緊急事態宣言の内容と意義について説明できる	ネットの情報や教師の提示する情報、教師や友達の意見、前時までの学習を参考に緊急事態宣言の意義について粘り強く考えることができる	
C	緊急事態宣言の内容と意義について知る	ネットの情報や教師の提示する情報、教師や友達の意見、前時までの学習を参考に緊急事態宣言の意義について粘り強く考えようとする事ができる	

(3)本時の展開

	学習活動	評価の観点	教師の指導及び支援及び配慮事項	備考
導入 10分	① 前時までの学習の振り返りを行う。	【主】	・「学習の計画」、OPPシートを使って振り返りを行う	・「学習の計画」 ・OPPシート
	② 本時のめあて(問い)を確認する	【主】	・めあての達成が児童にとってどのような資質・能力の成長につながるかを説明する。	
緊急事態宣言ってなに？				
展開 25分	③ 緊急事態宣言についての情報を、パワポを見てクイズに答えながら理解する。	【知】	・教師が作成したパワポを基に学習を進める。	・大型TV ・前時までの学習物
	④ パワポを見た感想を交流する。教師が情報の整理を行う。	【思】	・自分の生活に結び付けて考えられるようにする。	
	⑤ なぜ、緊急事態宣言が取られたのかについて話し合う。	【思】	・前時までの学習の足跡等も活用し、自ら考えられるようにする。	
まとめ 10分	⑥ 「緊急事態ってなに？」というめあてに答える形で、話し合いをしながら今日の学習を白板にまとめる。	【主】	・本時を具体的に振り返り、めあての達成を自分たちで判断する。	OPPシート
	⑦ 学習の計画とOPPシートの記入を行う。	【主】	・OPPシートの記入を通し本時の学習で一番大切なことを確認する。	
	⑧ 学習の計画を活用し、次時の学習の見通しを持つ	【主】	・次時だけでなく、単元全体を見通せるようにする。	

※ OPPシートとはOne Page Portofolio シートのこと。児童が、本時において大切だと思ったことを書きためた自己評価のPortofolio。

個別の評価記録 生活単元学習「コロナ対策を自分で考えよう」

児童名： 6年 A

担当者名：大嶺 耕一

1. 単元の個別目標と評価

観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①個別目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスへの感染の仕方や現在の社会状況について知る。 ・感染予防策の意義を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースやネットの情報、教師や友達の意見を参考に自分なりに考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘り強く人の意見を聞き、理解しようとしている。 ・学習に見通しを持つようとしている。
④個別評価	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスが口、鼻、目から感染することや外出を控える社会状況について知ることができた。 ・感染予防策の必要性を体験的に理解することはできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に、自分にとって重要なコロナ対策について番号（ランク付け）をつけることができた。一人で根拠を持って考えることは難しかった。根拠となる部分をしっかり考える機会が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や友達の話を聞き、理解しようとすることができた。 ・学習の計画やめあての確認など、毎時間確認することに対しては集中力の欠如が見られた。
④評定	○	○	○
⑤学習の成果と課題	<p>○OPPA シートによると、学習前と学習後でコロナ対策に関する表現がより詳しい表現に変容している。コロナ対策が「手を30秒洗うこと」であるというような知識は増えたとし、すぐに想起できるようにもなった。</p> <p>○OPPA シートの自己評価欄に「ニュースを作ることが楽しかった」と書いていた。</p> <p>●知識は増えたが、知識を体験的に理解したり、生活の中で生かしていこうとするような深い学びにまでは至らなかった。聞くことで知ることが多く体験的活動が少なかったことが要因として考えられる。体験的活動を元に考える授業展開が求められる。</p>		
⑥単元の成果と課題	<p>○ニュース動画の作成は意欲的に行うことができた。また、動画を見ることで自分達の伝える姿を客観的に捉えることができた。他の学習でも動画の活用は効果的と考える。</p> <p>●単元計画時にはニュースや動画の視聴によって、知識を獲得していくことを想定していたが、実際には難しく、教師の話から知識を得ていくことが多かった。もっとネット等で調べる活動の経験を積み重ねていく必要がある。</p> <p>●「根拠を持って考える」ということが難しかった。教師からの教授が多く、児童同士で対する場面設定が少なかった、もしくは話し合いをするだけの知識や経験が足りなかった。他の単元の中でも、児童同士の話し合いをする時間を増やしていく必要がある。</p>		

本時の個別の観点別目標と観点別評価、OPPシート

次	時	②観点別目標	③評定			③観点別評価	OPPシート
			知	思	主		
一	1	・コロナウイルス感染症についての基本情報を調べる。	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・未知の情報を調べる方法として、①TV ②新聞③ネットの3つの方法を知った。実際にgoogleを使用してニュース記事にたどり着くことができた。が、内容は理解できず。 ・学習の計画を知ることができた。ニュース作成については少し意欲を見せる。 	【コロナ対策で大切なこと3つ】てあらい、うがい、ちゃんとあろう
	2	・コロナウイルス感染症対策の方法や意義について調べる。	△		△	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナにかかると風邪症状が出る、薬はない、病気の人やお年寄りが感染すると重症化することを、動画を見ることで知った。3回見ることで少し理解できたか。完全に理解はできていないかも。自分の生活に結び付けて考えることが難しい。発言に自信がない様子。 	びょうきがうつる
	3	・コロナウイルス感染症対策の方法や意義について調べる。	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・前時より、説明を聞いてそのことに対してつぶやきをするなど、意欲的に取り組んでいた。答えも質問に正対している。「病気の人にうつさない」と答えられた。 	せっけんててをあらう

	4	・緊急事態宣言や休校措置、経済問題について調べる。	○	○		・45分間集中していた。緊急事態宣言の3つのお願い①不要不急の外出の自粛、②学校や公園の休業、③生活品の販売の維持について知ることができた。「〇〇することは不要不急の外出にあたるか？」等の質問に自分で考え、答えることができた。	スーパーやくすりやさんはあけてください
	5	・10万円の給付金が国民一人一人に配られることを知る。	△		○	・10万円が国民一人一人に配られることを知った。給付金申請書を実際書き、申請書を提出しないともらえないことを知った。申請書の記入は教師と一緒にいった。	1000円のふうとうをかく
二	1	・コロナウイルス感染症によって、自分の生活の変わる、変わらないことについて考え、判断する。	△		△	・新しい生活様式についての動画を自分で探し、視聴し、何がかわるのかを考えた。動画の内容が難しく、理解することが難しかった。きるが、「なぜ人混みを避けた方が良いのか」等の問いに答えることは難しかった。動画の視聴だけでなく、教師の説明や解説が必要。	すきまなくマスクをつける
	2	・新しい生活様式について考える。	○			・新しい生活様式についての子供向けの動画(教師がチョイス)を視聴し、コロナ対策としてこれから行っていくことについて「2m離れる」「体調が悪いときは大人の人に教える」等と発表することができた。	うちのものがなくなったときスーパーに行く
	3	・コロナウイルス感染症について調べたことや、自分なりに考えたことを模造紙にまとめ上げる。		○	○	・みんなの意見を書いたものを模造紙に並べて、似た内容についてまとめていった。教師の説明を聞きながら「コロナウイルスを身体に入れないためにすること」「健康な身体」「なるべく集まらない」も3つにグルーピングすることができた。	
	4	・コロナウイルス感染症について調べたことや、自分なりに考えたことを模造紙にまとめ上げる。		○	○	・グルーピングした中で、自分にとって「できること・大切だと思うこと」と「できないこと・大切だと思わないこと」について意見を分けた。「手洗いはできるが、マスクをずっとつけることは難しい」等自分の気持ちや考えを素直に表現し、考えることができた。	
三	1	・模造紙にまとめ上げたものを基に「コロナニュース」を作る	○	○	○	・教師と一緒に今までの学習を振り返り、模造紙にまとめたものの中から、ニュースとして伝えたいことを選ぶことができた。	じぶんでかんがえてニュース
	2	・模造紙にまとめ上げたものを基に「コロナニュース」を作る	○	△	△	・教師の指示に従いコロナニュースの撮影をすることができた。見通しを持っておらず、撮影することでどのようなニュースが作られるのか想像することが難しい。	
	3	・模造紙にまとめ上げたものを基に「コロナニュース」を作る	○	○	○	・撮影した動画を編集ソフトに落とし、ニュース動画として見ることで、見通しをもつことができた。そこから意欲的に撮影に参加することができるようになった。セリフを考えることは難しいが、動きとしてコロナ対策を考えることはできた。	ごはんをよこならびでたべることがたいせつ
	4	・本単元の学習を振り返り、新しくわかったことと、わからなかったことを認識する。 ・自己評価と他者評価を行う。	◎	○	◎	・完成したニュース動画を楽しんでみる事ができた。学習の振り返りでは、「緊急事態宣言」が「なるべく外に出ないこと」であることや10万円の給付には申請が必要であることを思い出すことができた。単元全体の感想としては「ニュースづくりが楽しかったです」と記入していた。	【コロナ対策で大切なこと3つ】窓を開けるのが大切、毎日熱を測るのが大切、30秒手を洗うことが大切

(2) 小学部実践例

遊びの指導 学習指導案

令和2年8月 28日 金曜日 3校時 場所：4年教室
小学部 男子2人 女子2人 計4人
指導者 CT：大道瑛司 ST：川満範子

【育てたい資質・能力】

- ・ゲームを通して数の概念を理解し、自分や友達が取れたボールの数を数えることができる。

1. 単元名「ころころキャッチゲーム」

2. 単元設定の理由

(1) 児童観

本授業の対象である児童は、一般3名、重複1名（男子2名、女子2名）の計4名である。遊びに関して、自分からやりたい遊びを選んで楽しむ様子が見られ、その時に児童同士で関りながら遊ぶことができるようになってきている。また、教師が提示した遊びにも自分から参加して一緒に遊び、楽しむ様子が見られた。学習面においては、今年度から机上での学習に取り組む時間が増えてきており、平仮名の模写やマッチング手指を使った活動（アイロンビーズ、洗濯ばさみ等）を行っている。その時にはよそ見が多い、なぞりがうまくできない等の課題がみられる。算数に関する実態は、1～20までの数字がわかる児童が1人、1～5までの数唱ができる児童が1人、1～5までのマッチングができる児童が2人と実態は様々である。数の概念に関してはまだ身についておらず指導が必要である。

(2) 単元観

今まで遊びの指導ではフープ取りゲーム、感触遊び、水遊び等様々な遊びを行ってきた。特に、ボール遊びでは児童全員が興味を持って楽しく遊んでいた。そこで、児童全員が楽しんで遊ぶことができるボール遊びを行いながら児童の課題である数の概念、数唱、数量の比較等を身につけることができるような活動を設定する。ころころキャッチゲームは、机の上で転がるボールを机から落ちると同時に容器でキャッチするゲームである。転がってくるボールをよく見て、目で追いキャッチすることで追従性眼球運動や目と手の協応を身につけることができる。また、友達がゲームをやっている様子を見ることで、友達の真似をしながらどうしたらうまくキャッチできるか考える力や応援したり喜びを共有したりアドバイスしたりすることで友達同士の関りにもつながると考える。

(3) 指導観

本題材を通して、まずは児童の楽しむ気持ちを大切にしながら活動に取り組んでいく。ゲームの中での数える活動では実態に応じた教具を使い、1人でもしくは教師の少しの支援で数量がわかるようにし、数の概念や数字が理解できるようにする。また、友達の活動をよく見て、うまくキャッチする方法を考えたり、友達に教えてもらう等と友達同士で関りながら活動してほしい。その時、教師が良いところは褒めたり、積極的に応援をしてお手本になることで児童同士の関りを引き出すようにする。単元の後半では児童のみでころころキャッチゲームに取り組むようにして、児童同士での遊びが広がるようになってほしい。

3. 単元目標

ころころキャッチゲームに積極的に参加し、楽しんで遊ぶことができる。

4. 単元の観点別目標（評価規準）

(1) 数の概念や数量等を理解することができる。【知・技】

(2) 友達にアドバイスしたり真似する等して数え方、キャッチの仕方を考えることができる。

【思・判・表】

(3) 児童同士で楽しんでコロコロキャッチゲームに取り組むことができる。【主体】

5. 学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	1～7 【本時】	○ころころキャッチゲーム 数えてみよう	○	○	
二	8～12	○ころころキャッチゲーム どっちが多いか考えてみよう	○	○	
三	13～15	○ころころキャッチゲーム 自分たちであそんでみよう		○	○

6. 単元の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	・補助具を使って一人でボールを数えることができる。	・キャッチする容器を自分で選び、ボールを取ることができる。	・友達と一緒に楽しんで遊ぶことができる。
B	・教師と一緒にボールを数えることができる。	・キャッチする容器を自分で選び、ボールを取ることができる。	・友達と一緒に楽しんで遊ぶことができる。
C	・教師と一緒にボールを数えることができる。	・キャッチする容器を自分で選び、ボールを取ることができる。	・友達や教師と一緒に楽しんで遊ぶことができる。
D	・一人でボールの個数を数えることができる。 ・ボールをよく見てキャッチすることができる。	・キャッチする容器を自分で選び、自分なりの方法でボールを取ることができる。	・友達や教師と一緒に楽しんで遊ぶことができる。

7. 本時の学習（一の7時）

(1) 本時の目標

- ①自分なりの方法でキャッチすることができる。
- ②教師と一緒にボールを数えて、キャッチしたボールの数がわかる

(2) 本時の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	・教師と一緒にボールを数えることができる。	・キャッチする容器を自分で選び、ボールを取ることができる。	
B	・教師と一緒にボールを数えることができる。	・キャッチする容器を自分で選び、ボールを取ることができる。	
C	・教師と一緒にボールを数えることができる。	・キャッチする容器を自分で選び、ボールを取ることができる。	
D	・一人でボールの個数を数えることができる。	・キャッチする容器を自分で選び、自分なりの方法でボールを取ることができる。	

(3) 本時の展開

	学習活動	評価の観点	教師の指導及び支援及び配慮事項	備考
導入 5分	○教師がキャッチしたボールを一緒に数える。		・良い手本や悪い手本を見せて、どうすれば上手にキャッチできるかを考えることができるようにする。	
展開 35分	○ころころキャッチゲーム ・容器を選ぶ。 ・ボールをキャッチする。 ・補助具を使ってボールを数える ・白板に数字カードとキャッチした数のマグネットをはる。 ・マグネットの数をみてだれが一番多いか考える。	【思・判・表】 【知・技】 【知・技】 【知・技】	・大、中、小3つの容器を用意して自分で選ぶことができるようにする。 ・ボールをよく見てキャッチするように言葉かけをする。 ・見ている児童に応援するように促す。 ・上手にキャッチしている児童をほめ、見ている児童にも共有する。 ・児童と一緒に声を出して数えて数を意識できるようにする。 ・キャッチしたボールの数があっていたらほめる。 ・児童と一緒に声を出して数えながらマグネットをはる。 ・誰が一番多いか問いかけて、考えることができるようにする。	
	今日の振り返り		・今日の活動で良かったことや楽しんでいたことを振り返る。	

8. 本時の評価基準

	知識・技能	思考力・判断力・表現力
A	◎補助具を使って一人でボールを数えることができた。 ○教師と一緒にボールの数を数えることができた。 △数を数えることができなかった。	◎一人で容器を選び、ボールをキャッチすることができる。 ○教師の促しを受けて、容器を選び、ボールをキャッチすることができる。 △遊びに取り組むことができなかった。
B	◎補助具を使って一人でボールを数えることができた。 ○教師と一緒にボールの数を数えることができた。 △数を数えることができなかった。	◎一人で容器を選び、ボールをキャッチすることができる。 ○教師の促しを受けて、容器を選び、ボールをキャッチすることができる。 △遊びに取り組むことができなかった。
C	◎補助具を使って一人でボールを数えることができた。 ○教師と一緒にボールの数を数えることができた。 △数を数えることができなかった。	◎一人で容器を選び、ボールをキャッチすることができる。 ○教師の促しを受けて、容器を選び、ボールをキャッチすることができる。 △遊びに取り組むことができなかった。
D	◎一人でボールを数えることができた。 ○教師の少しの支援でボールを数えることができた。 △ボールを数えることができなかった。	◎一人で容器を選び、ボールをキャッチすることができる。 ○教師の促しを受けて、容器を選び、ボールをキャッチすることができる。 △遊びに取り組むことができなかった。

個別の評価記録 遊びの指導「単元名：コロコロキャッチゲーム」

児童名：4年 D

1. 単元の個別目標と評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①個別目標	・一人でボールの個数を数えることができる。 ・ボールをよく見てキャッチすることができる。	・キャッチする容器を自分で選び、自分なりの方法でボールを取ることができる。	・友達と一緒に楽しんで遊ぶことができる。
④個別評価	・一人で個数を数えることができた。 ・ボールを見ることはできてきたが、キャッチミスも見られた。	・自分で容器を選択したり、容器の持ち方を友達から教えてもらったりしたことで、自分なりの方法でボールを取ることができた。	・容器にボールが入ると声を出して喜び、楽しむ様子が見られた。
④評定	○	○	○
⑤学習の成果と課題	○転がってくるボールを目で追うことができ、容器に入るようになってきた。 ○友達の動きを観察して、容器の選択や自分なりの持ち方を工夫する様子が見られた。 ●同じ場所でのキャッチが多く、左右に転がすと身体を移動するタイミングが合わないことが多かったので、足の動きを取り入れた遊びも展開する必要がある。		
⑥単元の成果と課題	○音の出る数字絵本やボールの個数が確認できる教具を活用したことで、数えることに興味を持つことができた。 ○授業以外でも友達と関わるようになっていたり、友達の間違いに気付いて教え合ったりする様子が見られた。 ●遊びの中に算数的要素を取り入れてみたが、数の概念は獲得するためには、更に繰り返し学習する必要がある。		

2. 本時の個別の観点別目標と観点別評価

次	時	②観点別目標	③評定			③観点別評価
			知	思	主	
一	1	・コロコロキャッチの遊び方を知る。	○			○教師や友達遊ぶ様子を見て、転がってくるボールを取るとは理解できていた。 ●転がってくるボールを容器に入れずに手で取ってしまう。
	2	・転がってくるボールを容器に入れることができる。	△	△		○転がってくるボールを途中までは、目で追うことはできていた。 ●容器にボールを入れることはできず。
	3	・転がってくるボールを容器に入れることができる。	△	△		○転がってくるボールを容器に入れようとする。 ●手で取ってから容器に入れる。
	4	・転がってくるボールを容器に入れることができる。	△			・1～2個までは、転がってくるボールを手で取っていたので、容器を変更。 ○容器にボールを入れようとする様子が見られた。
	5	・容器を選択して、一人でボールを入れることができる。			△	・前回と同じ容器を自分で選択。 ・教師の手添えで容器の位置と一緒に確認する。 ○教師と一緒にボールを容器に入れることができ、声を出し喜ぶ。
	6	・容器を選択して、一人でボールを入れることができる。	○		○	・前回と同じ容器を選択。 ○ボールのスピードを遅めにする、ボールを容器に入れることができた。
	7	・一人で、ボールの個数を数えることができる。	◎	◎		・容器を自分で選択。 ○一人でボールの個数を数えることができた。

二	1	・ボールの数の比べ方を知る。		○	・友達と自分のマグネットの数を一つ一つ指差し確認して、数を比べていた。
	2	・ボールの数を比べて、大きい数を選択することができる。	◎	◎	○マグネットを一つずつ指で確認しながら、数を指差しで合図していた。
三	1	・友達と一緒に遊ぶことができる。			欠席
	2	・友達と一緒に遊ぶことができる。		○	○ゲームの流れを理解していて、友達が転がすボールをキャッチしていた。 ●自分でやりたい気持ちはあるが、友達の支援が多く、困っていた。

(3) 中学部実践例

生活単元学習指導案

令和2年9月9日 4校時 場所：中学部2組教室
中学部 2組 男子4人・女子3人 計7人
指導者 CT：金城裕紀 ST：黒島昌樹、小濱愛里佳

【育てたい資質・能力】 「自分で考え、行動できる力」
-新しく情報を収集し、その情報を基に自分で考え、表現し、実際に行動に移すことができる力-

1. 単元名「自分ができる台風対策を考えよう」

2. 単元設定の理由

(1) 生徒観

本学級は1～3年生までの複数学年で構成され、障害の特性や理解の程度、作業能力等の個人差が大きい。発語がなく自身の考えを表現することが難しい生徒や簡単な意思疎通は可能だが複雑な思考を表現することが難しい生徒も在籍しているが、ほとんどの生徒は自分の考えをまとめ、発表することができる学級である。また、宿題を自分から要求するなど学習意欲は高い反面、思考を伴う課題に対しては苦手意識を持っている生徒が多い学級でもある。そして、その自信の無さから発表や行動には消極的であり、必要以上に教師に確認をする生徒も見られる。本学級の目標「STK（素直・助け合い・考える）」にもあるように、本学級の生徒は自分で考え、行動する、主体性の面に関して課題がある。この主体性を育むために、自分自身で考え、自身の考えを表現し、行動する活動に取り組ませたい。

(2) 単元観

本単元で取り扱う台風はどの生徒も経験したことのある身近なものである。その経験から「台風は風が強い」「停電する」等、ある程度の「知識」は持っている。その「知識」をもとに「思考」を巡らせ、言葉で「表現」させることで、「主体性」を育むことができる教材だと考える。しかし、これだけでは既存の「知識」を「表現」しただけで、この単元を通して「主体性」の向上が図られた訳ではない。そこで本単元では、台風について新たに獲得する「知識・技能」を活用して、自分ならどうするか「主体的」に「判断」し、「表現」することを目指し学習に取り組んでいく。具体的には、台風についての知識やその被害について学び、その対策方法について考え、発表することを通して、実際に行動できるようになることを目指した取り組みを行いたいと考えている。また、単元全体を通して、学びの結果だけではなく、そのプロセスにも着目させることで、生涯にわたって学び続ける意欲や態度の素地を養うことも目的の一つとしている。

【各教科目標との関連】 特別支援学校学習指導要領解説 中学部

教科	目標
国語	○聞くこと・話すこと 1段階 「ア：身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞いたことを書き留めたり分からないことを聞き返したりして、話の大体を捉えること。イ：話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めること。オ：相手の話に関心を持ち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつこと。」
社会	○地域の安全 2段階 「ア：地域の関係機関や人々は、過去に発生した地域の自然災害や事故に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。イ：過去に発生した地域の自然災害や事故、関係機関の協力などに着目して、危険から人々を守る活動と働きを考え、表現すること。」 ○産業と生活 2段階 「ア：水道、電気及びガスなどの生活を支える事業は、安全で安定的に供給や処理できるよう実施されていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。」 ○我が国の地理や歴史 1段階 「イ：都道府県内における市の位置や市の地形、土地利用などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。」
数学	○データの活用 1段階 「㊦：身の回りにある数量を簡単な表やグラフに表したり、読み取ったりすること。」

理科	○地球・自然 2段階 「ア：水は、高い場所から低い場所へと流れて集まること。」 ○物質・エネルギー 1段階 「ア：風の力は、物を動かすことができること。また、風の力の大きさを変えると、物が動く様子も変わること。」
職業・家庭	○情報機器の活用 1段階 「ア：コンピュータ等の情報機器の初歩的な操作の仕方を知ること。イ：コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことなどを他者に伝えること。」 ○消費生活・環境 1段階 「ア：生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとする。」

(3) 指導観

「主体的な学び」の実現に向けて、単元の始めには台風について学ぶ意義を説明し、学習計画を提示することで見通しを持って学習に取り組めるようにする。また、毎時間、本時の目標だけではなく単元の全体目標も確認することで、最終的なゴールを常に意識させる。そして、毎時間振り返りシートを記入させることで、自己の学びを振り返り、成長できた点や反省点等を次回の学習に活かせるようにする。さらに、単元当初に考えた台風対策と、単元後半で考えた台風対策の違いを比較させ、単元を通して学びを振り返らせることで、自己の成長を実感させるとともに、学習意欲の向上や学び方の理解の定着を図りたい。

「対話的な学び」の実現に向けて、教師の一方的な説明に終始することの無いよう生徒との対話を重視して授業に取り組む。その際には、できるだけ生徒の発言を拾い、肯定的に受け止めることで発言しやすい環境作りに務める。また、グループ活動など生徒同士の会話が生まれる場面も設定することで、友達同士の対話から、情報を整理し、自身の考えを深めさせたい。特に、台風対策について模造紙にまとめる活動では、極力生徒同士で考え、まとめさせることで、協力して思考を深めていく過程の有用さに気づかせたい。

「深い学び」の実現に向けて、友達と協力してまとめた台風対策をもとに、単元の最後に台風新聞を作成させる。自分ができる台風対策に加え、どの内容を新聞に記載するか、どのようなレイアウトにするかなど、極力自分の思考・判断・表現で新聞を作らせる。また、完成した新聞を家に持って帰らせることで、実際に自分で考えたことが行動できるのか、その様子も見守りたい。ただし、台風対策は危険が伴うこともあるので、注意事項はあらかじめ提示しておく。

3. 単元目標

- (1) 自分ができる台風対策を考え、発表することができる。
- (2) 「情報を得る→考え、表現する→行動する」という学習の流れを理解することができる。
- (3) 台風の怖さを知り、台風が来た際の自身の行動について考えることができる。(生徒G)
- (4) 教師とコミュニケーションを取りながら、しっかり目で見て学習活動に参加することができる。(生徒C)

4. 単元の観点別目標（評価規準）

- (1) 天気調べ方がわかり、天気を調べることができる。台風の強さや動き、その被害等について知ることができる。【知識・技能】
- (2) 今までの台風の経験や教師の話、調べたことなどを参考に、自分ができる台風対策を考え、発表することができる。【思考・判断・表現】
- (3) 学習に見通しを持ち、慣れない学習に対しても粘り強く取り組むことができる。できるようになったこと、またその要因について自覚することができる。【主体的に学習に取り組む態度】

5. 学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	四時間	・天気の調べ方を学び、天気を調べる。 ・台風について調べる。 ・台風被害について調べる。	◎	○	○

二	三時間	<ul style="list-style-type: none"> ・台風対策について考える。 ・台風接近時の自分の行動について考え、判断する。 ・台風やその対策について調べたことや、自分なりに考えたことを模造紙にまとめる。 	○	◎	○
三	三時間	<ul style="list-style-type: none"> ・模造紙にまとめた内容と自分のできる台風対策を基に「台風ニュース（動画）」を作る。 ・単元当初の自分の考えと比較し、新しくわかったことを認識する。 ・単元全体の評価を基に、自己変容についての要因を認識する。 	○	○	◎

6. 単元の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	天気の調べ方がわかり、天気を調べることができる。台風の強さや動き、その被害等について知ることができる。	今までの台風の経験や教師の話、調べたことなどを参考に、自分ができる台風対策を考え、発表することができる。	学習に見通しを持ち、慣れない学習に対しても粘り強く取り組むことができる。できるようになったこと、またその要因について自覚することができる。
B	天気の調べ方がわかり、天気を調べることができる。台風の強さや動き、その被害等について知ることができる。	今までの台風の経験や教師の話、調べたことなどを参考に、自分ができる台風対策を考え、発表することができる。	学習に見通しを持ち、慣れない学習に対しても粘り強く取り組むことができる。できるようになったこと、またその要因について自覚することができる。
C	話し手や映像など、しっかり目で見て学習活動に取り組むことができる。	ジェスチャー等で、教師へ支援を求めることができる。自分なりの表現で台風のイラストを完成させることができる。	みんなと協力して、最後まで集中して活動に取り組むことができる。
D	天気の調べ方がわかり、天気を調べることができる。台風の強さや動き、その被害等について知ることができる。	今までの台風の経験や教師の話、調べたことなどを参考に、自分ができる台風対策を考え、発表することができる。	学習に見通しを持ち、積極的に活動に取り組むことができる。できるようになったこと、またその要因について自覚することができる。
E	天気の調べ方がわかり、天気を調べることができる。台風の強さや動き、その被害等について知ることができる。	今までの台風の経験や教師の話、調べたことなどを参考に、自分ができる台風対策を考え、発表することができる。周りの意見を参考にする前に、まずは自分で考えてみるすることができる。	学習に見通しを持ち、慣れない学習に対しても粘り強く取り組むことができる。できるようになったこと、またその要因について自覚することができる。
F	天気の調べ方がわかり、天気を調べることができる。台風の強さや動き、その被害等について知ることができる。	今までの台風の経験や教師の話、調べたことなどを参考に、自分ができる台風対策を考え、発表することができる。	学習に見通しを持ち、慣れない学習に対しても粘り強く取り組むことができる。できるようになったこと、またその要因について自覚することができる。
G	台風を含めた天気の違いについて理解し、台風の怖さを知ることができる。	台風が来た際の自身の行動について考えることができる。	みんなと協力して、最後まで集中して活動に取り組むことができる。

7. 本時の学習（一次の4時）

(1) 本時の目標

台風の被害について知ることができる【知識・技能】

(2) 本時の個別目標

氏名	観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A		台風の被害について、知ることができる。	台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。	苦手な課題に対して、粘り強く考え、活動に取り組むことができる。
B		台風の被害について、知ることができる。	台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。	苦手な課題に対して、粘り強く考え、活動に取り組むことができる。
C		話し手や映像など、しっかり目で見えて学習活動に取り組むことができる。	自分なりの表現で、教師へ支援を求めることができる。	教師の支援を受け入れ、力むことなく学習活動に取り組むことができる。
D		台風の被害について、知ることができる。	台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。	積極的に発表に取り組むことができる。
E		台風の被害について、知ることができる。	台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。	苦手な課題に対して、粘り強く考え、活動に取り組むことができる。
F		台風の被害について、知ることができる。	台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。	苦手な課題に対して、粘り強く考え、活動に取り組むことができる。
G		台風の怖さを知ることができる。	教師の支援のもと、イラストを選び、貼り付けることができる。	積極的になぞり書きやイラスト貼り等に取り組むことができる。最後まで集中して学習に取り組むことができる。

(3) 本時の展開

	学習活動	評価の観点	教師の指導及び支援及び配慮事項	備考
導入 10分	1. はじめの挨拶 2. 前時までの振り返り 3. 動画視聴「台風の風を体験1'48」 4. 本時の目標、活動内容の確認	【知・技】 【思・判・表】 【知・技】 【知・技】	・できるだけ生徒の言葉を引き出して、前時の振り返りを行う。 ・「台風のとき何してる？」に対して、返ってくる生徒の発言を使い、風の話へ ・動画を見ていない場合は、STは生徒C,Gの支援を行う。 ・目標の確認（台風の被害について知ることができる。）。ワークシートへ記入させる。生徒C,GはSTの支援で記入。	《理科》

展開 30分	5. 台風の被害ってどんなものがある？	【知・技】 【思・判・表】 【主】	・ワークシート問題4に記入させる（※書けなくても良い）。生徒C,GはSTの支援のもと、イラストの貼り付け作業をさせる。	《社会》
	6. 動画視聴「台風によるさまざまな被害 1' 49」	【知・技】 【思・判・表】	・動画を見ていない場合は、STは生徒C,Gの支援を行う。	《社会》 《理科》
	7. 動画を振り返って、用語の確認	【知・技】	・生徒達に質問しながらワークシート問題5の（ ）を埋めていく。生徒C,GはSTの支援のもと、なぞり書きを行う。	《社会》
	8. 動画視聴「台風の被害 0' 52」	【知・技】 【思・判・表】	・動画を見ていない場合は、STは生徒C,Gの支援を行う。	《社会》
	9. 停電、断水、欠航で困ることを、ワークシートに記入	【知・技】 【思・判・表】 【主】	・ワークシート問題6～8を記入させる。言葉がでなくても粘り強く考えさせる。生徒C,GはSTの支援のもと、イラストの貼り付け作業をさせる。	《社会》 《職業・家庭》
	10. 発表、振り返りシートの記入	【主】	・記入したことを発表させる。	《国語》
まとめ 10分	11. まとめ	【思・判・表】 【主】	・台風の被害について整理し、目標達成の確認を行う。	《社会》 《理科》
	12. 次回予告	【主】	・次の授業内容の確認を行う。	
	13. 終わりの挨拶			

8. 本時の評価基準

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	◎台風の被害について知ることができる。 ○支援のもと、台風の被害について、ワークシートへ記入することができる。 △台風の被害について、ワークシートへ記入することができない。	◎台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。 ○教師の支援を受け、台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。 △台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、文字や言葉で表現することができない。	◎苦手な課題に対して、粘り強く考え、活動に取り組むことができる。 ○教師に助言を求めながら、活動に取り組むことができる。 △教師の指示を受けて活動に取り組むことができる。
B	◎台風の被害について知ることができる。 ○支援のもと、台風の被害について、ワークシートへ記入することができる。 △台風の被害について、ワークシートへ記入することができない。	◎台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。 ○教師の支援を受け、台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。 △台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、文字や言葉で表現することができない。	◎苦手な課題に対して、粘り強く考え、活動に取り組むことができる。 ○教師に助言を求めながら、活動に取り組むことができる。 △教師の指示を受けて活動に取り組むことができる。
C	◎話し手や映像など、しっかり目で見えて学習活動に取り組	◎自分なりの表現で、教師へ支援を求めることができる。	◎教師の支援を受け入れ、力むことなく学習活

	<p>むことができる。</p> <p>○教師の支援のもと、話し手や映像など、しっかり目で見て学習活動に取り組むことができる。</p> <p>△教師の支援のもと、できそうな活動に参加することができる。</p>	<p>○教師の動きを模倣して、支援を求められることができる。</p> <p>△教師へ支援を求められない。</p>	<p>動に取り組むことができる。</p> <p>○教師の支援のもと、一緒に学習活動に取り組むことができる。</p> <p>△集中して活動に取り組むことができない。</p>
D	<p>◎台風の被害について知ることができる。</p> <p>○支援のもと、台風の被害について、ワークシートへ記入することができる。</p> <p>△台風の被害について、ワークシートへ記入することができない。</p>	<p>◎台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。</p> <p>○教師の支援を受け、台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。</p> <p>△台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、文字や言葉で表現することができない。</p>	<p>◎積極的に発表することができる。</p> <p>○教師に指名され発表することができる。</p> <p>△教師に指名されても発表することができない。</p>
E	<p>◎台風の被害について知ることができる。</p> <p>○支援のもと、台風の被害について、ワークシートへ記入することができる。</p> <p>△台風の被害について、ワークシートへ記入することができない。</p>	<p>◎台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。</p> <p>○教師の支援を受け、台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。</p> <p>△台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、文字や言葉で表現することができない。</p>	<p>◎苦手な課題に対して、粘り強く考え、活動に取り組むことができる。</p> <p>○教師に助言を求めながら、活動に取り組むことができる。</p> <p>△教師の指示を受けて活動に取り組むことができる。</p>
F	<p>◎台風の被害について知ることができる。</p> <p>○支援のもと、台風の被害について、ワークシートへ記入することができる。</p> <p>△台風の被害について、ワークシートへ記入することができない。</p>	<p>◎台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。</p> <p>○教師の支援を受け、台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、考え、文字や言葉で表現することができる。</p> <p>△台風の被害、停電、断水、飛行機等の欠航などについて、文字や言葉で表現することができない。</p>	<p>◎苦手な課題に対して、粘り強く考え、活動に取り組むことができる。</p> <p>○教師に助言を求めながら、活動に取り組むことができる。</p> <p>△教師の指示を受けて活動に取り組むことができる。</p>
G	<p>◎台風の怖さを知ることができる。</p> <p>○台風の映像を見ることができる。</p> <p>△ワークシートのなぞり書きをすることができる。</p>	<p>◎イラストを選び、貼り付けることができる。</p> <p>○教師の支援のもと、イラストを選び、貼り付けることができる。</p> <p>△教師の支援のもと、イラストを貼り付けることができる。</p>	<p>◎最後まで集中して活動に取り組むことができる。</p> <p>○教師の支援のもと、集中して活動に取り組むことができる。</p> <p>△集中して活動に取り組むことができない。</p>

9. 授業の評価のポイント

- (1) 3観点を踏まえた授業展開の工夫がされているか。
- (2) 主体的・対話的で深い学びの工夫（めあてや学習計画の提示の工夫・教わる学習と考える学習のバランスの工夫・子どもに伝わる評価の工夫）がされているか。

生活単元学習指導案

令和2年9月14日 月曜日 5校時 場所：3年3組教室
高等部 3年3組 男子3人
指導者 CT：大城盛恒 ST：池原豊博 榮野川沢也

【育てたい資質・能力】

自分に自信を持って、人と関わる力

- ・自分に自信を持って：自分の良さや役割を理解し、間違いや他人との違いをおそれず
- ・人と関わる力：多様な集団の中で積極的に考えや気持ちを伝えたり、活動したりする力

1. 単元名「自分らしさを活動で発揮する」

2. 単元設定の理由

(1) 児童生徒観

本学級の生徒3名は、それぞれ知的障害とともにモヤモヤ病や筋ジストロフィー、脳性麻痺といった複数の種類の障害を併せ有していることから生活全般において支援や介助が必要である。教育課程は、自立活動の時間が多く設定されており、教科は音楽や体育、美術が設定されている。自立活動の内容は、話し言葉などを用いて相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりといったコミュニケーションに関する学習や、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や関節の拘縮・変形の予防、筋力の維持・強化を図るといった身体の動きに関する学習である。生徒3名とも言語の理解力が低く、他者との意思疎通の難しさが多々見られる。特に、気持ちの表出がうまくできない実態から、集団活動においては自ら判断したり表現したりする機会が少なく、長所を発揮する機会を失うこともある。しかしながら、日々支援者として生徒たちと過ごしていると、発語や動き、表情など3名それぞれに方法や度合いは異なるが、気持ちの表出と捉えられる表現を確実に見て取ることができる。また、主に個別の学習においては教師の支援のもとで、生徒各自の表出を活用して作品作りなどに取り組むこともできている。

進路選択ということに関して、上記の実態から「生活介護事業所で関わる人々と日々明るく前向きに過ごす」ことが本学級の生徒たちの充実した社会参加であると捉える。実際、本学級では卒業後に生活介護事業所を利用することを見据えて就業体験等を行っている。進路学習としては、他者と明るく前向きに過ごすために「他者からの働きかけに対して、受け身になるだけでなく自らが持てる能力を活用して他者に答える」ということを2年次までに学習している。3年次となる今回においても、同様の要素を含んだ学習を繰り返し行い、定着を図ることは必要である。さらに、3年次ということとを考慮すると、学んだことを多くの人に知ってもらうこと、特に、保護者や利用する予定の事業所の職員に知ってもらうことは円滑な就労移行のために必要であると考え。なぜなら、支援者が生徒の表出や長所等を把握して接することは生徒の安心感となり、新たな環境下でも意欲を持って過ごすことに繋がると考えるからである。

(2) 単元観

本単元では、生徒各自の表出や長所、それらを活かした活動を映像としてまとめる。生徒たちが本校でこれまでに培ってきた学習の成果のまとめとも言える。生徒自身がテーマであり、教師は“生徒らしさ”が発揮されるような活動や場面を設定する。その設定により、生徒は他者と一緒に意欲的に活動し、自分らしさを発揮できると考える。また、映像で記録することで生徒が自分を振り返ることや、保護者等が学校での生徒らしさを見て学習の成果を知ることができるため、本単元は本学級生徒の進路学習となり得ると考える。

(3) 指導観

本単元では、生徒が表出や長所を活かせる取り組みを担当教師と一緒にやる。話し言葉やボディタッチ等でコミュニケーションを図りながら、表出や長所を生徒に意識的に再現させることは、知識や技能を整理し、思考を伴いながら判断し、その判断の下で表現することになると考える。すなわち、生徒に自らの学びや成長を深くふり返らせることになる。生徒に自信やコミュニケーションの意欲を持たせるために、長所等を周囲の人々に実演や映像で紹介し、生徒が賞賛を得られるよう計画する。

本学級は、生徒1名に対して1名の教師が毎時間指導に当たり、移乗等を補助する介助員や医療的ケアを行う看護師も学級に入り生徒に接している。そのような職員体制から生徒の様子を複数の職員が目で見ることができている。各職員が見取った表出や長所などの生徒の様子は情報共有し生徒の指導に活かしていく。

3. 単元目標

- (1) 自分のできることや長所を認識し、自信を持って発揮することができる。
- (2) 自分のできることや長所を活かして、より多くの人と関わろうとする態度を身に付ける。

4. 単元の観点別目標（評価規準）

- (1) 主に自分のことに関して、「成長」や「いいところ」、「人と関わること」について、感じたり理解したりすることができる。【知・技】
- (2) 他者の働きかけや場の雰囲気を手がかりとして、考え判断して、自分の良さを活動や意思疎通に活用することができる。【思・判・表】
- (3) ・自分の良さを活用し他者に賞賛された経験から、良さを繰り返し活用したり、新たな方法を見いだしたりすることができる。【主体】
 ・自分の良さを活用して、他者に働きかけることができる。【主体】

5. 学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	1	好きなことや得意なことについて知る。	○		
	2	やりたい活動を決める。		○	
二	1	スライム作りについて調べる。	○		
	2	スライム作りの役割分担。		○	
	3	スライム作りをする。	○	○	
	4	作ったスライムを使う。	○	○	
	5	スライム作りで自分がやったことを映像でふり返る。		○	○
三	1	やりたい活動を決める。		○	
	2	〇〇作りについて調べる。	○		
	3	〇〇作りの役割分担。		○	
	4	〇〇作りをする。	○	○	
	5	作った〇〇を使う。	○	○	
	6	〇〇作りで自分がやったことを映像で振り返る。		○	○
四	1	これまでの活動の映像を他者に観てもらい、褒められる。	○		○
	2	活動を振り返り、それを今後も活かすことを確認する。	○		○

6. 単元の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	自分のよさを他者から伝えられると、返事をしたり、そのよさを発揮したりできる。	他者の働きかけや活動の意味を把握した上で、他者に促されつつも自分ができる行動を選択し実行できる。	・場の雰囲気や活動の内容を踏まえて、自ら適した行動をとる。 ・他者と協働しようという行動をとる。
B	自分の動きや活動に対して、教師の言葉かけを聞いて、自分の気持ちを確かめ確認できる。	他者の働きかけや場の雰囲気を感じ、受け入れて活動を共にしたり、拒否し拒む行動ができる。	反射的な行動で自分の気持ちや表現し、もっとやってほしいと要求ができる。
C	自分が「できること」、「やりたいこと」を考えることができる。	自分の良さを理解し、それを発揮する方法を考え行動に移すことができる。	「できること」を理解し、活動の幅を広げる工夫ができる。

7. 本時の学習（二の3時）

(1) 本時の目標

- ①自分のできることを理解し、実行できる。
- ②スライム作りでできることを考え、活用しようとする事ができる。

(2) 本時の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	『材料や道具を掴むこと、混ぜること、見ること、受け取ったり手渡したりすること』を自分ができるということを理解し、促されると実行できる。	道具や状況、言葉かけから何をすべきか考え・行動を選択し、行うことができる。考えたことを実行できる。	・掴むこと、混ぜること、見ること、受け取ったり手渡したりすることを作業工程の中で適切に発揮できる。 ・『仲間の順番のときには待つ』など他者を意識できる。
B	ボタンを押すことや材料を振って混ぜることを教師の言葉かけを聞いて継続できる。	道具を手渡されたり、他者からの言葉かけでできることを考え、行動に移すことができる。	手渡されるさまざまな道具を自分で確認し、行動に移すことができる。
C	スライム作りの指示者として、材料や作業工程を理解し担当者に伝えることができる。	作業の様子を見て、材料を混ぜ合わせる等を判断し、各担当者へ指示を出すことができる。	指示の言い回しを工夫したり相槌を打つなどして、集団活動を盛り上げようとする。

(3) 本時の展開

	学習活動	評価の観点	教師の指導及び支援及び配慮事項	備考
導入 10分	体調・姿勢のチェック 始めの号令 前時までの内容確認 本時のめあての確認	知識・技能	・生徒が話を聞きやすい体勢を整える。 ・生徒の反応を確認する。	・車いすに乗る。
展開 30分	〔スライム作り〕 材料の確認 役割分担の確認 ・水とホウ砂を混ぜる。 ・水と洗濯のりを混ぜる。 ・色を選んでつける。 ・混合液同士を混ぜる。 ・においを選んでつける。 スライムで遊ぶ (感触遊び、掴む、離す)	知識・技能 思・判・表 知識・技能 思・判・表	〔全体を通して生徒の反応を丁寧に待つ〕 ・素材の感触を手の平で感じられるようにする。 ・返事をするよう促す。 ・手や道具を使って「混ぜる」ということを理解させる。 ・道具や材料を「見る（注視）」「選ぶ」ということを促す。 ・手添えなどの支援を徐々に減らし、自分で行うよう促していく。 ・適宜褒める。	・iPadやGoProで動画と写真を撮影する。
まとめ 5分	できたことの確認 次時の確認 終わりのあいさつ	知識・技能	・生徒が話を聞きやすい体勢を整える。 ・映像でできたことを確認した後、言葉かけや手添えでできた行動を再確認する。 ・適宜褒める。	

8. 本時の評価基準

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	<p>◎『材料や道具を掴むこと、混ぜること、見ること、受け取ったり手渡したりすること』を自分ができるということを理解し、促されると実行できる。</p> <p>○『材料や道具を掴むこと、混ぜること、見ること、受け取ったり手渡したりすること』を手添えなどの支援の下で促されると実行できる。</p> <p>△促されたときに、「はい」の返事や促された行動とは違うが何かしらの反応ができる。</p>	<p>◎道具や状況、言葉かけから何をすべきか考え・行動を選択しようとするすることができる。考えたことを実行できる。</p> <p>○繰り返し行動を促されると、その行動を実行できる。</p> <p>△促されたときに、「はい」の返事や促された行動とは違うが何かしらの反応ができる。</p>	
B	<p>◎ボタンを押すことや材料を振って混ぜることを教師の言葉かけを聞いて継続できる。</p> <p>○ボタンを押すことや材料を振って混ぜることを教師の言葉かけや手添えなどの支援で継続ができる。</p> <p>△目的の活動とは違うが、覚醒し皆と行動を共にすることができる。</p>	<p>◎道具を手渡されたり、他者からの言葉かけでできることを考え、行動に移すことができる。</p> <p>○活動を拒む場合は、時間を置いたり、環境を変えることで、行動に移すことができる。</p> <p>△目的の活動とは違うが、覚醒し皆と行動を共にすることができる。</p>	<p>◎手渡されるさまざまな道具を自分で確認し、行動に移すことができる。</p> <p>○活動を拒む場合は、時間を置いたり、環境を変えることで、行動に移すことができる。</p> <p>△目的の活動とは違うが、覚醒し皆と行動を共にすることができる。</p>
C	<p>◎スライム作りの指示者として、材料や作業工程を理解し担当者に伝えることができる。</p> <p>○教師からヒントをもらいながら作業工程を伝えることができる。</p> <p>△教師の言葉をそのまま伝える。</p>	<p>◎作業の様子を見て、材料を混ぜ合わせる等を判断し、各担当者へ指示を出すことができる。</p> <p>○教師の促しによって物事を判断し担当者へ指示を出すことができる。</p> <p>△物事の判断がつかず教師の支援を待つ。</p>	<p>◎指示の言い回しを工夫したり相槌を打つなどして、集団活動を盛り上げようとする。</p> <p>○教師の促しによって指示の出し方を工夫できる。</p> <p>△自分の気持ちを出せず教師の支援を待つ。</p>

個別の評価記録 生活単元学習の指導「自分らしさを活動で発揮する」

生徒名：高3年 A 担当者名：大城盛恒

1. 単元の個別目標と評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①個別目標	自分のよさを他者から伝えられると、返事をしたり、そのよさを発揮したりできる。	他者の働きかけや活動の意味を把握した上で、他者に促されつつも自分ができる行動を選択し実行できる。	・場の雰囲気や活動の内容を踏まえて、自ら適した行動をとる。 ・他者と協働しようという行動をとる。
④個別評価	(二の5まで) 自分の良さを生かした行動をした際に、教師から賞賛の言葉かけなどがあると喜ぶ表現をすることができ、その行動を促されると支援無しでも行おうとするなど、自らの良さを発揮する姿勢が見られた。	(二の5まで) 教師の言葉かけや目の前の道具等から、自分が何をした方がよいのか教師の表情も見取りながら考える様子が見られた。そして、手添えなどで練習した行動を選択・実行することができた。	(二の5まで) ・支援者が担当教師以外のときや、周囲の状況が普段と少し違うときは、その違いを気にして集中しにくい様子がみられた。しかし、どのような状況でもやるべきことを忘れることなく、適切な行動を選択する様子が見られた。 ・会話の中でタイミングを合わせて「はい」と返事をすることができ、他者と意思疎通を図るという意識が身についている。また、他者に言葉をかけながら物を渡すなど、他者を意識しながら活動を行うことができた。
④評定	◎	◎	○
⑤学習の成果と課題	(二の5まで) 「他者と関わる中で進んで気持ちを伝え合う力」、「情報・助言を正しく理解し適切な行動につなげる力」、「課題を想像し間違いをおそれずねばり強くやり通す力」が本人の中で意識されたと思われる。作業において「丁寧さ」「細かさ」といった意識が本人には希薄であるが、脳性マヒという特性上、どの程度まで教師側が本人に求めるかは検討してもいいかもしれない。		
⑥単元の成果と課題	(二の5まで) 本単元の学習活動の配列は適切であったと思う。一方で、生徒が決めた活動内容（やりたい活動）を全ての生徒がより一層自発的に、教師の支援が少ない形でできるように計画や準備をする必要があったと感じる。そのために、生徒の実態把握もこれまで行ってきたことだけで足りないようであれば、視点を変えて見直したり、新たな方法や情報で実態把握をしたりする必要があると感じる。		

2. 本時の個別の観点別目標と観点別評価

次	時	②観点別目標	③評定			③観点別評価
			知	思	主	
一	1	好きなことや得意なことについて知る。	○			【知・技】教師の話を聞き、タイミングを合わせて返事をすることができたので、「自分は返事が得意であること」や「他者と一緒に活動するべきとき」などを理解できていたと評価する。教師から言葉やジェスチャーで伝えられた分の「自分のよさ」については返事をしていたが、本当に理解しているかどうかを本時は評価しない。実際の活動の中で自ら発揮できるかどうかで評価していく。

	2	やりたい活動を決める。		△		【思・判・表】学級の仲間が提案したスライム作りを教師がスライムを見せながら本人に伝え、注視でき、手で触れることもできたので、スライムで何かをすることを認識したと評価する。「作る」ということに関しては言葉を理解しているかどうかを本時は評価しないし、一人で作るということは求めないので重視することではないと思われる。本時はAくんよりも他生徒のよさを中心に組み立てていたため、この評価が単元全体の評価の中心には当たらないと考える。
二	1	スライム作りについて調べる。	○			【知・技】友達が調べたスライム作りの材料などを教師が伝え、話を聞いて相づちを打つことができた。教師の手添えの下、「握る」や「混ぜる」「受け渡し」の動作を確認できた。
	2	スライム作りの役割分担。		○		【思・判・表】自分ができる作業の役割を検討するために、粘土で「握る」や「受け渡し」を練習すると、積極的に手に取り握ったり受け渡したりできたので、物や動作を認識し、判断して行動したと評価する。
	3	スライム作りをする。	◎	◎		【知・技】各作業において、自ら手を差し出すことができたので「自分は手や道具を使って混ぜることができる」と理解している。また、教師の手添えのもと本人も力を入れながら、手などの動かし方を確認することができた。 【思・判・表】材料や道具を示されたり、言葉かけをされたりすると自ら行動して作業をしたので、見聞きしたことから、やるべきことを判断して行動できたと評価。
	4	作ったスライムを使う。	◎	◎	◎	【知・技】【思・判・表】【主体】スライムを使った遊びの中で、教師から言葉をかけられるとスライムを取って、にぎって感触を楽しんだり、教師に渡したりできたので、「自分は掴んだり離したりでき、それによって人と関わることができる」と理解し、意識的かつ意欲的に行動できていたと評価する。
	5	スライム作りで自分がやったことを映像で振り返る。		◎	◎	【思・判・表】【主体】iPadで写真等を示すと注視する様子が見られた。また、自分はどれか聞かれると指を指す動作もあったので、自身の活動の様子だと認識し、興味を持って見ることができたと評価する。
三	1	これまでの活動の映像を他者に観てもらい、褒められる。	○		○	
	2	活動を振り返り、それを今後も活かすことを確認する。	○		○	

(5) 寄宿舎 実践例

生活目標：衣服の清潔さを維持することで、健康の保持増進に繋がることを理解する

～豊かな社会生活を送るために～

メンバー：大見謝匡、親泊さゆり、上原秀哉、喜納愛利

対象舎生：Aさん（小学部6年生）

1. 生徒の実態

入舎3年目。本児は、寄宿舎生活で日課や余暇活動で体を動かす機会が多いため、たくさんの汗をかいている状況が多々見られる。そのため、衣服が汗でびしょりで汗臭くなりがちだが、衛生面に対する意識が低い。着替えないで活動をし続けることがある。また、自身の皮膚の状態を気にせず、不衛生のまま過ごすことがある影響で皮膚に発疹や汗疹ができています。

2. 生活目標設定の理由

本児は、衣類の分別（汚れている物とそうでない物）をしないで鞆に入れたり、汗をかいていたりしても心理的要素が働いて着替えを行わないことがある。寄宿舎では、職員の言葉かけや日課の場面に依拠して着替えることはできるが、自ら考えて着替えることは難しい。また、汚れている衣服を着用し続けることで、皮膚に発疹や汗疹ができ本児の健康にも影響を及ぼしていると思われる。

本児が、健康的で豊かな社会生活を送るためにも、身だしなみと衣服の保清に関する知識を身につけ、衣服や身体を清潔に保つことで健康の保持増進に努めることができると考える。

以上のことから本生活目標を設定する。

3. 生活目標における観点別目標

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
目標	衣服の清潔さと、清潔さが身体に与える影響を理解できるようにする。	衣服や身体を清潔に保つために、自身の状態を把握しその時々で必要な行動ができるようになる。	自ら意識して衣服や身体の状態を理解し、健康の保持増進に努める。

4. 指導計画と評価計画

主な活動	評価の観点		
	知識・技能	思・判・表	主体的
1.衣服や身体が清潔・不潔の様子を、実物や写真・イラスト等を使用し、視覚や嗅覚で理解できるようにする。	○		
2.衣服や身体の清潔さを保つことで、健康の保持増進に繋がることを理解する。	○		
3.自分の衣服や身体の状態を考えて、チェックリストを使用しながら、必要な行動をとることができるようにする。		○	○
4.自ら考えて衣服や身体の状態を理解し、必要な行動をとることができるようにする。		○	○

5. 評価基準

知識・技能	◎衣服や身体の清潔な状態が、健康の保持増進に繋がることが分かる。 ○衣服や身体の清潔・不潔が、どのような状態か分かる。 △衣服や身体の清潔・不潔について理解できていない。
思考力・判断力・表現力	◎自分の衣服や身体の状態を理解し、適切な行動選択ができる。 ○職員と相談しながら、適切な行動選択ができる。 △自分の衣服や身体の状態や状況を理解できていない。
主体的に取り組む態度	◎自ら意識して、学校内外で衣服と身体の清潔さを保ち、健康の保持増進に努めることができる。 ○職員が本人に気づかせるような言葉かけを行い、本人が衣服や身体の汚れに気づき、清潔さを保つための行動選択ができる。 △1 職員が本人に気づかせるような言葉かけを行い、本人が衣服や身体の汚れに気づくことはできるが、必要な行動選択ができない。 △2 衣服や身体の清潔さを保つための行動選択ができていない。

6. 生活指導改善のポイント

	方法	観点との関連
主体的	①学習の始めに衣服の清潔さについて学ぶ意義を知る。 ②学びの計画について知り、最終的に自ら考えて衣服や身体の状態を理解し、必要な行動をとることができるようになるための学習を行う。	「知識・技能」 「主体的に取り組む態度」
対話的	①ワークシートを用いて「知識」を習得するだけでなく、実物やイラスト等を見て職員と対話をする中で、自らの考えを広げたり、深めたりする。 ②広げ深められた知識から衣服や身体の状態を判断し、健康の保持増進に繋がることが理解していけるようにする。	「思考・判断・表現」
深い学び	①習得した「知識・技能」を基に、自身の衣服や身体の清潔さを維持するためには、どのような行動選択を取る必要があるのかについて、自分なりの考えを持てるようにする。 ②自分が獲得した身だしなみと衣服に対する保清についての「知識・技能」を基に「着替える判断チェックシート」を製作することで、状況に応じた行動選択を取れることを目指す。	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に取り組む態度」

7. 研究の実践

日付	職員の手立て	生徒の様子	観点別評価
8月17日 (月) ～ 8月20日 (木)	1: 対話 <入浴前> 嗅覚・視覚を活用して衣服の状態が清潔か不潔かを理解できるようにするために対話する。 <入浴後> 着用している衣服と洗濯する衣服を使用して、汚れているかどうか嗅覚や視覚で判断できるか確認するために	1: 対話 <入浴前> 活発に活動した後、本児の衣服は汗でびっしりの状態であった。 <入浴後> 本児は衣服の臭いを嗅ぎながら汚れ物を探すと同時に、触りながら汗で濡れているかどうか確認していた。	・衣服に関しては臭いを嗅いだり触って確かめたりすることで、衣服の清潔・不潔さや、それがどのような状態か理解している。 しかし、不潔さに対しての抵抗感が薄い。 【知・技】【思・判・表】

<p>9月28日 (月) ～ 10月8日 (木)</p>	<p>対話する。 <就寝前> 活動が少ない中でも自分の衣服の状態を理解できているかを確認するため対話する。</p> <p>2: ワークシート 身体の状態や衣服の清潔・不潔について、また、汗疹になる原因を理解できるよう、写真やイラストを見せながら理解を深める。更に振り返りを行い、不潔さが周りに与える影響についても触れながら、衣服や身体の清潔さを保つことで、健康の保持増進に繋がることを理解する。</p> <p>3: 場面設定 日課の流れのタイミングで着替えている様子が見受けられるため、入浴を先に済ませ、その後の活動で本児が身体や衣服の状態を理解して、どのような行動選択を行うか様子観察を行う。</p> <p>4: 絵カード 本児が着替えた時、着替えなかった時の行動の振り返りとして絵カード(着替えた ver.着替えない ver.)を使用しながら対話し、実生活と結びつけながら、見通しを示す。</p> <p>5: 週末の振り返り 寄宿舎での実践が家庭でも</p>	<p><就寝前> 身体を活発に動かすような活動を特にしていなかったため、汗をかいていなかったが、「歯磨き粉が付いたから」という理由を自分でしっかり考えて伝えることができた。</p> <p>2: ワークシート 汗疹、とびひについては「かゆそう、痛そう」という発言があった。自身の首の後ろが白くなっている(汗疹の痕)写真を見て、「ちゃんとこすってないからブツブツになっていると思う」と回答。汗をかいた衣服を着ている時の自分の気持ちについて、「つけたくない」別の日は「なにも思わない」といった回答があった。</p> <p>3: 場面設定 実際、草や土で遊んだ後にもかかわらず、「汗はかいていないから」という理由でそのまま布団に入ろうとした。汗をかいて衣服がびしょより濡れている場面では自ら着替えていた。</p> <p>4: 絵カード 着替えた ver.の絵カードで今の状態に当てはまるものとして、「いい気持ち」「きれいなひと」「モテる」のカードを選択。また、着替えない ver.の絵カードでは「きもちわるい」「ブツブツになる」「びょういん」「おかねがかかる」「くすり」のカードを選択。絵カードから、着替えて身体を清潔にできれば、今までかかっていた病院代や薬代のお金を、大好きな釣りに使えることを学んだ。</p> <p>5: 週末の振り返り 入浴や歯磨きをしなかった</p>	<p>・汗をかいていなかったが、衣服が見た目で汚れていると判断して着替えることができた。【思・判・表】</p> <p>・写真を見て汗と汗疹の区別、重症度の判別、重症化する理由については理解している。 ・汚れた衣服を着続けると汗疹ができたり臭くなることを理解している。 ・不衛生な状態から汗疹になることを理解している。 【知・技】</p> <p>・衣服の汚れが『目に見えない=汚れていない』、『汗をかいている=汚れている』と認識している。 ・汗をかいたまま着替えないと「ブツブツになる」「臭くなる」と、身体に及ぼす影響を理解している。 【知・技】</p> <p>・身体に及ぼす影響のみならず、今まで獲得してきた知識を、更に深めたり広げたりして、実生活に結びつけて考えることができています。 【知・技】【思・判・表】</p> <p>・家庭では自分で判断して着</p>
--	---	--	---

<p>10月12日(月) ～ 10月22日(木)</p>	<p>活かされているか、振り返りを記入したり対話を通したりして確認する。</p> <p>6：☆心もからだもきもちよく☆シート ＜着替えたい Ver.着替えたくない Ver.着替えた Ver.＞を使用し、場面に応じた考えや行動を理解する。</p> <p>7：ホワイトボードで状態確認・行動選択 ホワイトボード（どんなきもち？どうする？）を使用し、身体や衣服の現在の状態を理解させ、その後、状態に応じてどのような行動選択をとるか観察。対話をしながら着替えたことの振り返りを行い、適切な行動選択を促す。</p>	<p>日はあったが、着替えはしていた。しかし、夜遅くなったり忘れたりするという理由で入浴していない日があり、寄宿舍ではみんなでやるから自分もやると話している。また、毎日入浴したほうがよいかは「分からない」と答えている。</p> <p>6：☆心もからだもきもちよく☆シート ＜着替えたい Ver.シート＞ 活発に動いた後、「着替えたい Ver.」シートを選択。汗をかいている自身の状態は理解していたが、すぐに入浴するからということで着替えなかった。</p> <p>＜着替えたくない Ver.シート＞ 清掃後、大量の汗をかいていたにも関わらず、これから入浴するからという理由で「着替えない」という行動を選択した。別の日、就寝前には入浴後からそんなに活動していないという理由で着替えたくないと話していた。</p> <p>＜着替えた Ver.シート＞ 就寝前という場面で、衣服や身体が汚れていなかったが、なんとなくという気持ちで着替えた。別の日、「くさい」「濡れていた」「汚れていた」と話していた。</p> <p>7：ホワイトボードで状態確認・行動選択 衣服が汗で濡れている状態で現在の気持ちと、どう行動選択をとるのかを確認すると、気持ちは「とくにない」と答え、「きがえない」という行動を選択したが、しばらく考えた後に、「あせくさい」「ふくがくさい」「ふくがよごれている」と回答。「どうする？」の問いに、「きがえる」と答えて着替えをした。別の日、就寝前に自ら着替えたことを振り返り、「着替え</p>	<p>替えている。【主体的】</p> <p>・日課の流れや入浴までの時間を考えて着替えるか否かの判断をしていた。 【知・技】【思・判・表】【主体的】</p> <p>・自身の衣服と身体状況を判断して着替えることができた。 【知・技】【思・判・表】【主体的】</p> <p>・日課の流れの中で着替えている様子もうかがえた。 ・心理的要素（面倒くさい）が働き、自身の状態を汚れていないと話していたが、考え直して自身の状態を理解し適切な行動選択を行うことができた。 【思・判・表】【主体的】</p>
--------------------------------------	--	---	---

		<p>る前はどんな気持ちだったのか」の問いに「あせくさい」「ふくがぬれている」「ふくがくさい」と回答。「どうする？」の問いには「きがえる」と答えた。</p>	
職員の成果			
<p>1:対話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本児は臭いを頼りに衣服の状態を見極めようとしていたが、職員の言葉掛けで衣服を触り、衣服の見た目で見極めようとする行動に移すことができた。 ・当初、「臭い、濡れている」と言っていたが、後半になると「着替えるのが面倒くさい」など心理的な要因と思われる発言を引き出すことができた。 <p>2:ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを通して、自身の身体にできる汗疹についての知識が現時点でどの程度あるのかを確認することができた。 ・本児の実態と照らし合わせながら、ワークシートを通して不潔さ・清潔さが自身の身体への影響について知識を深めさせることができた。 <p>3:場面設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面を設定した結果、「目に見えない汚れ」に対する認識が難しいことが分かった。その一方で、衣服の状態を判断し身体への影響を考えて着替えることもできていたので、学んだ知識を使える知識として実践できている。 <p>4:絵カード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちや、考えたことを絵カードで表現できており、知識や判断力が身についている。また、本人の考えを広げたり深めたりする機会を設けることができた。 <p>5:週末の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴しない日があるため、本人の活動量から考えると、入浴も習慣化できるように今後に繋げていく必要があると感じた。 <p>6:☆心もからだもきもちよく☆シート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで習得してきた知識と技能を活用し、シートの項目から自身の身体や衣服の状態について該当する箇所に○を記入することができた。また、自分で項目事項を考えるなど、行動選択の幅を広げることができた。 ・自ら職員に声を掛けてシートを記入するなど、主体的な学習活動を行えるようになった。シート記入をしながら、学びと振り返りを繰り返すことで本人の適切な行動選択に繋げることができた。 <p>7:ホワイトボード掲示（居室内）で身体と衣服の状態確認・行動選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一旦は「面倒くさい」という心理的要素が働き、着替えようとしなかったが、考え直して今の自身の状態を理解しようと努めた態度は、これまでの指導の積み重ねが活きた瞬間だと感じた。更に、着替えることもできたので、本児の学びの成長を感じた。 			

8. 生活目標における観点別目標と評価

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
目標	衣服の清潔さと、清潔さが身体に与える影響を理解できるようにする。	衣服や身体を清潔に保つために自身の状態を把握しその時々で必要な行動ができるようになる。	自ら意識して衣服や身体の状態を理解し、健康の保持に努める。
評価	○ 衣服や身体の清潔・不潔が、どのような状態かわかる。	○ 職員と相談しながら、適切な行動選択ができる。	○ 職員が本人に気づかせるような言葉かけを行い、本人が衣服や身体の汚れに気づき、清潔さを保つための行動選択ができる。
目標に対しての成果と課題	(成果) 衣服の状態を判断し、身体への影響を考えて着替えることもできていたので、学んだ知識を使える知識として実践できている。	(成果) 状況に応じて自分なりに考えて着替えるか着替えないかの判断をしている。	(成果) 職員による言葉かけや支援ツールを利用すると、自身の身体や衣服の状態を理解して行動選択をし、清潔な状態にできる時もある。
	(課題) “目に見えない汚れ”に対する認識は難しく、不潔さに対しての抵抗感が薄い。	(課題) 知識が頭の中に入っているように思われるが、日課の流れのタイミングや「なんとなく」という感覚で着替えていたり、面倒くさくて着替えたくないという心理的要素もある。	(課題) 自ら意識することがあまりみられず、健康の保持に努めるまでにいたっていない。

9. 実践研究を通しての成果と課題

(成果)

- 生活指導改善のポイントを明確にしたことで、学びの意義や計画など見通しを持って学習活動に取り組むことができた。
- ワークシートだけでなく実物やイラスト、職員との対話や振り返りを通して自ら考え判断ができるような学習活動を行うことができた。
- 「面倒くさい」という心理的要素が働いても、適切な行動選択を取ることができつつあり、学びの意識化が見られるようになった。
- 共通した指導をベースに対象舎生の負担にならない範囲で、職員がそれぞれの実践方法でアプローチし、指導実践のバリエーションを広げることができた。
- 職員間で対象舎生の実態、現状などを共有し、指導方法や評価に関する観点の共通理解を図ることができた。
- 知識の習得や思考力・判断力・主体性を発揮する生活場面を意識的に設定していくために、職員側が3観点を意識して取り組むことができた。
- 場面設定や教材作成等、職員が指導方法について話し合い、意欲的に指導実践を行うことができた。
- 今後も職員間で舎生の実態、現状などを共有し、共通した支援方法で取り組んでいく有効な手立てになることが確認できた。
- 寄宿舎指導員特有の勤務態勢の中、空いた時間でのミーティングや会話の中でできる限り職員間で情報共有を図り、共通したベクトルで取り組むことができた。

(課題)

- 新型コロナによる休校や分散在舎等、生活指導実践期間が当初予定より短くなったことで、研究の前半は学びの意義や計画など、学習の見通しを持たせる活動に時間をかけることができなかった。
- 学習活動を通して学びの意識化は見られつつあるが、適切な行動選択を取るには今後も継続した指導が必要である。
- 週明けの帰舎時には不衛生なことがあるため、週末の生活習慣等に課題がある。家庭との連携が必要。
- 寄宿舎職員は部屋担当制・シフト制であり、対象舎生の部屋担当でない場合に細やかな指導が行き届かない難しさがあった。
- 評価の基となる「個別の生活指導計画」とどう結びつけていくのか。様式や記述方法等。

8 通知表について

(1) 通知票の書き方について

① 通知表（評価）記入についての前提

- ア 児童の資質・能力の変容と指導について書く。「目標に準拠した評価」
- イ 評価の観点を明確にする。「観点別評価」
- ウ 資質・能力の向上に役立てられるように書く。「アセスメントとしての評価」
- エ 道徳科は個人内評価のため、観点別ではない。
- オ 自立活動は観点別の目標設定及び評価を行うことは必須ではない。

② 目標の書き方

- 学習指導要領の教科の目標・内容を参考にして書く。
 - ・活動の目標ではない。
 - ・観点別でなくてもよい。
 - ・自活は領域名も括弧書きで書く。

③ 学習内容の書き方

- 目標に対しての学習内容を書く。
 - ・学期にやったことを全て書くわけではない。
 - ・音楽→曲名等、自活→絵カード、ペグ差し等。

④ 評価の書き方

- 観点を明確にして書く
 - ・～を理解することができた。～と感ずることができた。等、文末表現で観点を明確にできる。
 - ・基本3観点で書く。まだできていないこと、それも評価。ただし、その観点について今後どう取り組んでいくかも書く。
 - ・重度重複の児童の場合、個人内評価（人間性や可能性、期待等）を【学びに向かう力、人間性】として書いてもよいとする。

⑤ 総合所見の書き方

- 保護者や児童へのメッセージとして書く
 - ・児童の変容、その背景や要因を分析して書く。
 - ・観点別である必要はない。
 - ・個人内評価も書いてよい。

(2) 通知表の記入で配慮したいこと

① 前提として

- ア 表現の前提となる「対象が誰で」「どんな目的で」「何を伝えるのか」を十分考慮する。
- イ 限られたスペース、文字数で表現することに配慮する。

② 分かりやすく

- ア 専門用語は置き換えて表現する。

- イ 取り組みの方針と具体的方法をポイントを絞って書く。
- ウ 生徒が努力していたことを中心に内容を組み立てる。(活動の記録を活用する)
- エ 「できる」「できた」の程度を表す表現の工夫をする。(副詞、文末表現)
- オ 主語等省略した言葉の係り受け、助詞の選択に十分配慮し、誤解のない表現にする。
(例えば、事実と感じたこと、支援することを一文で表現するとき等は要注意)
- カ 評価観点はその言葉を明示することで明確になる。(～を理解した。～の知識を～)

③ 伝えるに配慮する (総合所見)

- ア 必要ならば、家庭での指導への期待や協力依頼は丁寧に書く。
- イ 文字数の制限等で書ききれない場合は、懇談の席で伝える等の工夫をする。
- ウ 表現した内容には、その根拠をもち説明できるように備える。
- エ 指導の重点が伝えられるように表現を工夫する。(ポイントを名詞に置き換える等)

④ 表現力の向上を目指して

- ア 多くの語彙を身につけるための情報との向き合い方を見直す。
例えば：客観的な情報を表現したい → 情報からどんなことが言えるのか？
問題は何か？を考えることを意識する。
- イ 自分の意見を持つ → 文章化する。書くことで見えてくる思考の癖や自分なりの言い回しを把握し、改善に繋げる。
- ウ 考えはアウトプット (Output) することを推進し、表出をおそれない態度を身につける。
同時に表現を受け入れる職場の雰囲気づくりを図る。

=そもそも=

評価として表現を成立させることとは

事実から何を把握し、どのように感じ、どのように支援する(支援していくつもり)かを制限された文字数に合わせ、読み手となる対象に配慮して書く。

欄に書かれた文章(表現)として見た場合、基本として必要な構成要素は①～③になる

- ①事実(生徒の活動 教師の支援)
- ②その時に評価という視点から感じたこと
(ここでは感じたが持つ意味の範疇は限定しない)
- ③今後支援すべきこと(事実を把握した後、どのように支援するつもりか)

誤解に繋がりやすい例

=事実の記載(主述の一致) =

- ・主語を生徒にして書きだした場合(省略されていても)、一文の中で、教師の支援を書きたいときは、主語となる「教師は」の明記が必要。(あるいは二文にする)
- ・①においての教師の支援と③の支援とを続けて書きたいときは、時間の経過がわかるように、或いは支援の段階がわかるように、適切な接続に配慮することが必要。

=感じたことの記載(文末表現) =

- ・評価という前提で感じ取れたことを書くことに注意し、文末表現を工夫する。

*誤解のないように伝えることや、書きたいことを正確に表現できるよう努力する。

(3) 通知表の記入例(小学部)

教科	目 標	学習内容	評価
国語	<p>①繰り返しの言葉や文章のリズムを生かして、音読をすることができる。(語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること)</p> <p>②挿絵と文を結び付けて、登場人物の行動や場面の様子やセリフなどを想像することができる。(場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること)</p>	<p>①②「おおきなかぶ」</p>	<p>①「おおきなかぶ」の学習の中で、繰り返しの言葉「うんとこしょ、どっこいしょ」があることに気づくことができました。【思考・判断・表現】また、繰り返し教師の範読を聞いたり、拍手でリズムをとりながら音読をすることで体感的にリズムのよさについて感じるようになってきています。一字読みではなく、語のまとまりで読むことができます。【知識・技能】</p> <p>②友達の受け答えを参考にして、「たねからかぶになれ」「ぬけないよ」「はたけをがんばるぞ」等とおじいさんの気持ちについて考えることができました。また、かぶをひっぱりながら音読する活動を行ったところ、「うんとこしょ、どっこいしょ」の「しょ」を強く読むと登場人物の「がんばる」気持ちに近づくということに気付くことができました。【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】</p>
算数	<p>①丸、三角、四角の形を使って鬼の顔を製作し、表現することができる。(身の回りのものの形に着目し、集めたり、分類したりすることを通して、図形の違いが分かるようにするための技能を身につけるようにする。)</p>	<p>①製作活動(鬼の顔作り)</p>	<p>①教師が手本となり、丸、三角、四角に切られた画用紙を使って、鬼の顔の製作を見せた後に、教師と相談しながら、鬼の顔の製作を行いました。丸、三角、四角の形の違いを理解し、分類することができました。【知識・技能】「この白い丸は目かな？鼻かな？」等の言葉かけの支援をすることで、丸は目、三角は鼻というように自分で考えて製作することができました。「笑った鬼を作る？怒った鬼を作る？」の問いかけには「赤鬼は笑っている鬼、青鬼は怒っている鬼」と答え、眉毛の三角の形を変えることで笑った鬼と怒った鬼の二つの表情を表現することができました。【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】</p>
音楽	<p>①曲の雰囲気に合わせて自由に身体を動かし、表現することができる。 【身体表現】(音や音楽を聴いて、様々な体の動きで表現する技能)</p>	<p>①「ちょうちょ」</p>	<p>①学習発表会に向けて「ちょうちょ」の曲に合わせて、腕を上げ下げしたり、リズムに合わせて歩いたりする身体表現に取り組みました。初めのうちは、教師の手添え支援を受けながら身体表現をしていましたが、だんだんと自分の感じるままに腕や足を動かして表現できるようになっていきました。【知識・技能】【思考・判断・表現】学習発表会の事後学習では、小学部の友達の前で「ちょうちょ」の身体表現を披露しました。元気に腕を上下に動かしたり、腕を挙げながら笑顔でジャンプをしたりして、楽しく自由に表現することができました。 【主体的に学習に取り組む態度】</p>
体育	<p>①教師と一緒に走ったり歩いたりして楽しく身体を動かすことができる。(教師と一緒に、走ったり、跳んだりして楽しく体を動かすこと)</p>	<p>①持久走(1km)</p>	<p>①校内の外周道を2周(1km)走る持久走に取り組みました。まず、健康な生活を送るためには「食べる、眠る、運動する」の三つ要素が必要であることを知りました。【知識】そして、実際に持久走を行う際には、楽しい雰囲気の中、身体を動かすことができるように、教師が追いかけて、逃げたりする真似をしながら取り組みました。また、毎回の記録をとり、前回のタイムよりも速く走ることを目標とすることで、「前よりも速く走れて嬉しかった」と教師に伝えることもできました。【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】</p>
道徳	<p>①みんなのためにできることを考えたり、みんなのために役立つことをするよさを知る。(働くことのよさを知り、みんなのために働くこと)【勤労、公共の精神】</p>	<p>①話し合い活動「みんなのためにできること」</p>	<p>①学校生活の中で、みんなのためにできることについて話し合いを持ちました。教師と一緒に、具体的に学校生活の流れを確認していく中で、「給食準備の際に給食配膳用の机を運ぶこと」がみんなのためにできることだと気付くことができました。また、そのことを実際に行動に移し、まわりの人に称賛されることで、みんなのために役立つことをすることのよさを実感を持って知ることができました。この活動を「係り活動」に発展させることで、責任感を持って働く態度を身に付けていけるように継続して取り組んでいきます。</p>

自立活動	①自分の感じたこと、思ったことを言葉で相手に伝えることができる。【コミュニケーション】(コミュニケーションの基礎的能力に関すること)	①「絵カード」「ロールプレイ」「ごっこ遊び」	①自分の感じたこと、思ったことを身近な人にしか伝わらない表情や特定のジェスチャーで伝えることが多く見られました。これは、語彙が少ないために自分の考えや気持ちを的確に言葉にできないことが考えられました。そのため、絵カードを使って、気持ちを表す言葉を覚えたり、実際に学習した言葉を使ってやりとりをしたりするロールプレイやごっこ遊びに取り組みました。ロールプレイを通して、「えんりよします」「やりたいです」「かしてください」等の言葉を場面に応じて使う経験を積むことで、実際にものを借りる場面や友達からの誘いを断る際に「かしてください」や「えんりよします」と受け答えをすることができました。引き続き様々な場面で言葉を使って相手に伝えられるように語彙力の向上とやりとりの経験を増やしていくように取り組んでいきます。
日常生活の指導	①好き嫌いなく食事をする態度を身に付ける。(日常生活に必要な身辺処理等に関する知識や技能を身につけること)	①基本的生活習慣	①1学期、苦手な食べ物とは半分以上残すことが多くありました。【知識・技能】そこで、なぜ好き嫌いなく食事をする必要があるのかについて、「しょくいくランドのたんけん たからものはなあに？」の読み聞かせを行い「風邪をひかない元気な体を作るため」ということを知ることができました。【知識・技能】給食指導の中でも好き嫌いなく食べることで、元気な体が作られることを繰り返し説明することで、苦手なものも残さず完食できる日が増えていきました。【知識・技能】今後は、自分で判断をして好き嫌いなく食べることができるように取り組んでいきます。【思考・判断・表現】
遊びの指導	①友だちと一緒にかくれ鬼ごっこをして楽しく遊ぶことができる。(日常生活の遊びで、友達と関わりを持ち、きまりを守ったり、遊びを工夫し発展させたりして、仲良く遊ぼうとすること。)	①かくれ鬼ごっこ	①1学期から追いかけてごっこ遊びに取り組んでいるので、「鬼から逃げる」「鬼になったら追いかける」という決まりを理解し、活動に楽しく取り組むことができています。【知識・技能】また、2学期以降取り組んでいる「鬼から隠れる」という要素に関しても友達の様子を見ることで理解し、隠れながら鬼ごっこをすることもできています。【知識・技能】また、友達の誘いを受けて同じ場所に息を潜めて隠れ、鬼に見つかった際には声を上げながら友達と一緒に逃げるなど、仲良く遊ぶこともできました。【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】
生活単元学習	①係活動について知り、教師と一緒に当番活動をする態度を身につける。(身近な集団活動に参加し、簡単な係活動をしよとすること)	①係活動	①視覚教材や教師の説明を通して、係活動の内容について知ることができました。また、係活動はみんなのために行う仕事だということも知ることができました。【知識・技能】いくつか提案された係活動の中から、給食台を移動させる係を選びました。【思考・判断・表現】そして、給食準備の際には、教師と一緒に給食台を所定の場所に運ぶことができています。【知識・技能】運んだ際に周りの教師や友達に称賛されることで、喜びとともに責任感が芽生えてきているように感じます。今後は友達と一緒に係り活動ができるように継続して取り組んでいきます。【主体的に学習に取り組む態度】

総合所見

3学期は、登校のスクールバスから降りてくると、すぐに「髪切ったよ」という報告や「今日は何するの?」という質問等、自分から積極的に言葉でのやりとりをするようになってきました。友だちや教師と楽しい経験を積み重ねることによって、不安感、緊張感なく友達や教師とかかわれるようになってきているためだと考えています。また、学習活動の中での小さな困難や友達とのトラブルは自分の力で解決していこうとする意欲も感じられるようになってきました。さらに、担任以外の教師や他学年の友達とのかかわりも増えてきているので、次年度以降交友関係の広がりや人とかかわる力のさらなる向上に期待しています。ご家庭においても、引き続き、楽しい経験ややりとりを通してかかわる力を一緒に育てていきたいと思います。

《参考文献・引用文献等》

- ・中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」平成 28 年 12 月 21 日
- ・中央教育審議会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」平成 31 年 1 月 21 日
- ・「特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領」文部科学省 2018
- ・「特別支援学校学習指導要領解説 各教科編（小学部・中学部）」文部科学省 2018
- ・「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」文部科学省 2018
- ・「小学校学習指導要領」文部科学省 2017
- ・上岡一世著「新学習指導要領を踏まえたキャリア教育の実践」明治図書出版 2019
- ・上岡一世著「キャリア教育を取り入れた特別支援教育の授業づくり」明治図書出版 2013
- ・高木展朗著「評価が変わる、授業を変える：資質・能力を育てるカリキュラム・マネジメントとアセスメントとしての評価」三省堂 2019
- ・市川伸一編集「2019 年改訂 速改 新学習指導要領と『資質・能力』を育む評価」ぎょうせい 2019
- ・田中耕治編集代表「学びを変える新しい学習評価 理論実践編 1 資質・能力の育成と新しい学習評価」ぎょうせい 2020
- ・田中耕治編集代表「学びを変える新しい学習評価 理論実践編 3 評価と授業をつなぐ手法と実践」ぎょうせい 2020
- ・独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所編著「知的障害教育における学習評価の実践ガイド」ジヤース教育新社 2016
- ・丹野哲也・武富博文編著「知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメント」東洋館出版社 2018
- ・西岡加名恵・石井英真・田中耕治編著「新しい教育評価入門」有甲閣コンパクト 2015
- ・岡本薫「なぜ日本人はマネジメントが苦手なのか」中経出版 2011
- ・松村英治著「『授業研究』の創り方」東洋館出版社 2019
- ・岡山県特別支援学校校長会 岡山県教育庁特別支援教育課「授業づくりハンドブック」平成 30 年